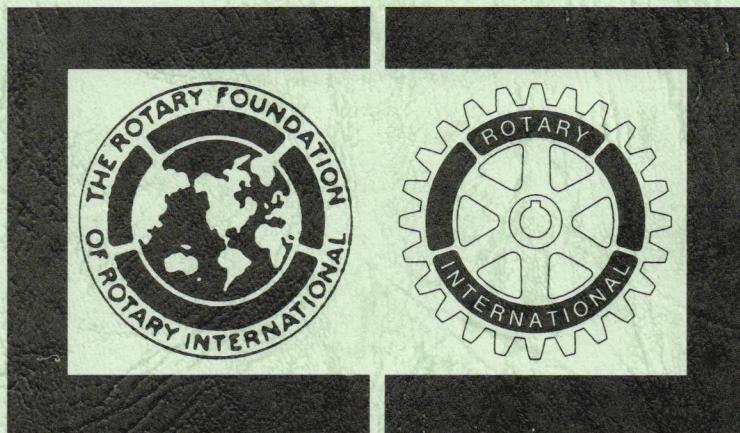


ロータリー財団学友会活動報告 No.18

# P S C だより

2002~2003年度



国際ロータリー第2660地区  
財団奨学金・学友委員会  
国際親善奨学生学友会（PSC）



## PSCだより2002-2003

## 「PSCだより」目次

発刊によせて	2
--------	---

財団奨学生・学友委員会より	3
---------------	---

I. 2002～2003年度 PSC活動報告	
------------------------	--

A. 2002～2003年度PSC役員	7
---------------------	---

B. PSC例会記録	7
------------	---

C. PSC活動カレンダー	9
---------------	---

D. 2002年7月～2003年6月会計報告	11
------------------------	----

E. RI2660 PSCメーリングリストについて	12
---------------------------	----

● コラム(奨学生 OB/OG はいま)	13
----------------------	----

II. 留学体験者の声(第1回報告/最終報告)	14
-------------------------	----

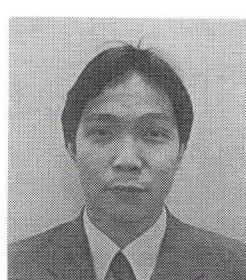
● コラム(奨学生 OB/OG はいま)	23
----------------------	----

III. 2003～2004年度財団国際親善奨学生プロフィール	24
---------------------------------	----

## ■発刊によせて■



2002-2003 年度  
PSC 会長  
弓庭育子



2002-2003 年度  
PSC 会長  
濱崎寛和

今年も 2002~2003 年度「PSC だより」を刊行し、PSC の活動を皆様にお知らせすることができました。去年に引き続いて編集作業を進められました内村編集長と書記の方々に御礼申し上げます。

PSC とは国際親善奨学生が留学後に加入する学友会のことです。親善活動の前半期が留学だとすれば、PSC はその後半期です。後輩の留学準備を情報面でサポートしたり、卓話で留学体験をお話ししたりと、留学で得た経験と知識を社会に還元しながら親善活動の総まとめを行っています。

近年、通信機器が発達したおかげで、PSC でもインターネットによる会員の意見・情報交換が活発に行われております。また大阪以外の都府県に住んでいる PSC 会員にとっても、活動に参加しやすい環境が整備されつつあることは喜ばしいことで、京都住まいの私も大いにその恩恵にあずかりました。また、2002 年度には企画の方々の尽力のおかげで PSC 会員相互の親睦を深める機会が充実しました。仲間と楽しみながら仕事をすることで、PSC 全体が活気づいたような感があります。

現在も「留学マニュアル」のデジタル化など、PSC 会員の人知を尽くした活動を意欲的に行っており、常に新しい切り口で PSC の可能性を模索しています。

この「PSC だより」には国際親善奨学生が現地で切磋琢磨する姿や PSC の活動がありのままに綴られています。それらを通じまして国際親善奨学生制度のことを、地区内外のロータリアンの方々にご理解頂ければ幸いです。

最後になりましたが、PSC 活動を支えて下さっているロータリアンの皆様に厚く御礼申し上げます。また、財団奨学金・学友委員会の皆様には、この場を借りまして、日頃のご支援ご指導に対しまして御礼申し上げます。

本年も、PSC 便りが刊行できました事を大変嬉しく思いますと同時に、刊行に際し尽力くださいました内村編集長並びに書記の方々、財団奨学金・学友委員会の方々に改めまして厚く御礼申し上げます。

皆様既にご存じのことと思いますが、ロータリー一財団国際親善奨学生は留学から帰国後 PSC に入会します。その活動は主として留学体験を伝えることによる財団への還元や、次奨学生候補者の方々への留学準備サポートとなっております。近年は留学先においてもパソコンの環境が整っている事も多く、国内の PSC 会員だけではなく現在留学中の未来の PSC 会員との質疑応答なども活発になっており、より新鮮な情報の交流がなされ奨学候補生の方々にも非常に参考になっているのではないかと思います。

2004 年 5 月には国際ロータリー 2004 年国際大会が大阪にて開催されます。世界各国へ留学していた PSC メンバーも、この機会に留学中に培った国際親善の経験を活かし、去らなく国際交流のお手伝いが出来れば幸いです。中には留学中にお世話になったロータリアンが来日し、再会できるといった風景も見る事が出来るかもしれません。

最後になりましたが PSC の活動を支えて頂いておりますロータリアンの方々に感謝の意を表しまして、発刊のご挨拶とさせて頂きます。

## ■財団奨学生・委員会より■



2002-2003 年度  
ロータリー財団部門  
担当パスト・ガバナー  
中野董夫（大阪阪南 RC）



第 2660 地区  
財団奨学生・学友委員長  
佐藤俊一  
(大阪鶴見 RC)

PSC の皆さんには奨学生オリエンテーションや、各クラブの卓話などの際にご協力いただき感謝しております。今後とも宜しくお願ひいたします。

さて、ロータリー財団の事情を「手続き要覧」に基づいてお知らせします。ご存知のようにロータリー財団はロータリアンの善意の寄付金によって運営されています。その使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて、ロータリーの綱領とロータリーの使命を遂行し、かつ世界理解と平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支援することです。

地区で受領できる奨学生は地区財団活動資金 (District Designated Fund-DDF) の額より、地区による教育的プログラム分野へのシェア配分額に応じて、国際親善奨学生の人数が決まることになっています。従って、シェア配分の割合についてはロータリアンの理解を得ることが大事です。

国際親善奨学生制度を有効に活用するためには、まず国際親善に理解ある優秀な奨学生を世界に送り出すことです。そして奨学期間の終了後は学友として、世界社会への献身の念をはぐくみ世界の人々の間に理解溢れる平和な関係を推進するというロータリーの夢を引き続き分かち合うことです。

そのための組織として PSC が機能することを期待しているのですが、帰国後の元奨学生は推薦地区に留まるとは限らないこともあります。そこで、帰国後の居住地で PSC に参加できる方法を考えられないか、などが委員会で話題になることもあります。因みに、米山奨学生の学友会の修了者で日本に居住している方々の地区を越えた全国組織が最近発足しました。

全国の元財団奨学生ならびにロータリアンが交流を続けられるような良い手段が無いかどうか、ご提案を願えればありがたいと思います。

毎年の事ながら、PSC の皆様の献身的なご努力により「PSC だより」が発刊されている事に敬意を表します。また、私が委員長としての職責を担っていられるのも、地区事務局に PSC メンバーが勤務しているお蔭と個人的にも感謝しています。

さて、財団奨学生・学友委員会は毎年ロータリー財団国際親善奨学生を募集し、選考していますが、最近は派遣奨学生の数が年々減少しており、往年の半数はおろか、2年後には 10 人を切ることが確実となっています。その原因としてはロータリアンの財団にたいする寄付が減りつづけているのが最大ですが、その上、国際ロータリー本部から地区へ戻る資金 (DDF) の割合が 60% から 50% に減ることや、奨学生プログラムの相対的評価が低くなっている傾向もあります。

このような国際親善奨学生プログラムの厳しい状況をなんとか改善するためには、個々のロータリアンの理解とこの制度の重要性を訴える以外にはありませんが、多くのロータリアンの財団奨学生や PSC に対する認識が充分あるとはいえない。そういう状況であればこそ、財団学友会の果たす役割は益々重要となってくるでしょう。

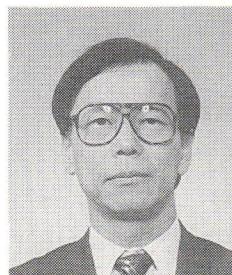
一方、PSC 側の問題としては、この地区に残る帰国した奨学生が少ないといったこともあります。そのためには、地区外にいる PSC にはメーリングリストや準備中のホームページを通じて情報を共有し、間接的に地区の PSC 活動に協力していただくシステムをより堅固に作っていく事が必要でしょう（現 ML の管理者は地区外に在住）。

また、全国的な財団学友組織を作つて、どこにいても地元のロータリークラブで卓話等の協力ができるような体制ができればいいと考えています。

いずれにせよ、PSC 諸君と財団奨学生・学友委員会が協同して、より強力な学友会活動を進めていかなければならぬと感じています。PSC の皆様の益々のご活躍を期待しています。



第 2660 地区  
財団奨学生・学友副委員長  
溝畠正信  
(東大阪東 RC)



財団奨学生・学友委員  
梅崎道夫  
(大阪城南 RC)

### マジアベ（2003-04 年度）RI 会長（左）と

PSC 会員諸君には年々益々活発に活動して頂いております。その活動は、地区財団部門関係者や顧問ロータリアン、その他のロータリアンとの交流、PSC 例会の開催、PSC 組織の充実と活性化への取り組み、地区行事への出席、それらの会合におけるスピーチ、ロータリークラブでの卓話、またインターネットを通じて、奨学生候補者に対する留学準備のサポート、そして「PSC だより」の発行などです。

ここ数年来、ロータリー財団管理委員、地域コーディネーター、学友諮問グループ委員主催による財団学友セミナーが開催され、日本の各地区的財団委員長、奨学生・財団学友委員長、財団学友、財団国際親善奨学生及び候補者が出席し、ロータリー財団の現状報告、学友の報告、学友の組織化と展望等についての講演やシンポジウムが行われています。これから社会での活躍が期待される有能な人材である学友を大事にしよう、ずっと関係を持っていこうと願ってのことからです。学友のロータリーについての知識と、それぞれの分野での専門知識は、国際ロータリー及びロータリー財団の使命の支援のために大きな力となります。ゆくゆくはローターアクト・クラブの会員となり、ロータリークラブの会員になって国際ロータリーの活動に参加することが期待されています。

奨学生のことを親善大使という言葉で表現しますが、お互いの理解を深め、友好を増進する事が、今日の世界において新たな意味を持っています。

今後益々の財団学友の活躍を祈念致しますと共に、ロータリアンの皆様方には PSC への暖かいご支援ご協力を願い申し上げます。

2004 年には、国際大会が大阪で開催され、プレコンベンションに財団学友セミナーがあります。さらに、2005 年はロータリー創立 100 周年で、様々な形でロータリーへのご参加をお願いする事になると思いますが、ご協力宜しくお願ひします。

2002～2003年度は、これまでの財団学友委員会と財団国際親善奨学生委員会とが、財団奨学生・学友委員会として統合され、地区予算も前年比約 1 割減額されてスタートしました。この委員会の会計を担当する立場として、何とか予算の範囲内で決算できたことに胸をなで下ろしております。

学友委員会出身の私は、この年度で初めて奨学生を選考するという大きな仕事の一端も体験しました。二つの委員会でやってきた事は、それぞれに重要なことばかりで簡単に合理化できるものではなく、委員としての負担が増えたことも事実です。

一方、財団奨学生OB/OGが担う PSC 活動の重要性は些かも減じることなく、この 1 年間 PSC 諸君が後輩の為に、またロータリー活動の為に積極的且つ献身的に尽力されたことを嬉しく思っております。

ロータリアンの皆様も、この PSC だよりをご一読頂くことで PSC 活動へのご理解を深めて頂き、より一層のご支援を賜りますようお願い致します。



財団奨学生・学友委員  
榎原春枝  
(大阪柏原 RC)

2004 年 3 月に今年留学する国際親善奨学生の第 2 回オリエンテーションが大阪市立科学館で開催されました。奨学生の皆さんに留学生に選ばれ帰国するまでには、顧問ロータリアンや PSC 会員、留学先でお世話してくださるロータリークラブの人達等々たくさんの方々の善意と努力があります。ロータリー国際親善奨学生としての自覚を持って、人と人とのつながりを大切にしながら留学生活を送ってほしいと思います。

帰国報告会で留学生の貴重な体験を聞くことは

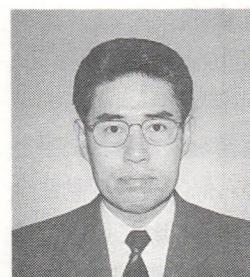
私たち委員にとっても大変勉強になり、楽しみにしています。帰国後は PSC 会員として後に続く人達の指導に携わって頂けるよう願っています。



財団奨学生・学友委員  
佐藤秀雄  
(茨木西 RC)

年々減少傾向にあるロータリー財団の限られた財源の中で、いかに秀でた奨学生候補を選ぶか、そして、すでに選ばれた奨学生に対し、顧問ロータリアンと共に親善大使としてその役割とロータリー財団の意義について認識して頂くこともこの委員会の仕事です。

PSC 会員が地区主催行事等に参加していくことにより、財団学友の貢献を周知していくことも重要であります。



財団奨学生・学友委員  
寺田秀興  
(東大阪東 RC)

「PSC だより」への原稿をとのことで、丁度良い機会と地区委員会に在籍した間の関係書類からメモに至るまでの諸々を整理しました。元より何事にも振り返る事があまり好きではない私ではありますが、流石に 8 年度に渡るそれらからは、実に多数の人々（ロータリアンや PSC、学生等）との交流が浮かび上がり強い感銘を覚えました。2~3 年のつもりで始まった委員活動でしたが、知らずの内に長期間となってしまいました。活動内容での反省や、今後への提言に多く気付く事もありますが、限られた誌面につき、新たな委員さん方へは別の機会が持てることを楽しみとして残しておこうと思います。とにかく、良い思い出を沢山得られたものと感激し感謝していることをお伝えしたい。



財団奨学生・学友委員  
岩本洋子  
(大阪そねざき RC)

私は従来留学生を送り出す側、直接的に言えば、40 人以上いる留学希望者を定員まで試験で「落とす側」に所属していました。ところが、学友委員会と一緒にになり、厳格な試験委員として優秀な人達を試験で選抜する他に、留学して帰国した方々との交流を楽しみ、大変満足しています。

2003 年 11 月のロータリー財団月間に、大阪そねざき RC の例会に PSC の牧尾晴喜さんにお話して頂き、私達の寄付金がこのように留学生に使われている事を、クラブのメンバーに理解してもらいました。

第 2660 地区財団委員長の居相英機さんより次のような厳しいご意見を頂きました。「留学に出る人達に、日本の歴史や第 2660 地区の情報を収集し、それを留学先でうまく自己表現するトレーニングが必要である。オリエンテーションはそのためのものではないか。」当を得たアドバイス（苦言）でした。それで、2003-04 年度より留学生がオリエンテーションでプレゼンテーションを用意することになりました。

長いロータリーの歴史・奨学生選考試験の歴史ですが、この委員会は構成・選抜方法・オリエンテーションの方法など、毎年新しくなっていることを実感しています。

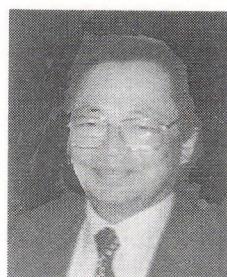


財団奨学生・学友委員  
岡田東一  
(大阪 RC)

地区から頂いた私の役割はロータリー会員の浄財を活用し、国際親善使節としての高い可能性を秘めた若者を海外に送り出すための選考委員というものでした。毎年選考の時期が近づくと試験問題を考える事に苦心しました。幸い多くの優秀な

方々が選ばれて海外へ羽ばたいていかれるのを見て嬉しく思うと同時にあまり何も出来なかつたことを申し訳なく思っています。2003-04 年度で引退させていただく機会に一言申し述べます。

私も 47 年前の 1957 年に米国のピッツバーグにあるカーネギー工科大学物理学系の大学院へ留学しました。当時は現在のように随時に通信できるイーメールやファックスはなく、電話嫌いの私はあらゆる連絡に苦労しました。選考試験の結果、合格が決まってからわずか 1 ヶ月で出発ということで、この大学に留学している日本人を知る間もなく現地に到着、直ちに寮生活、そしてフルコースの講義・実験・研究が始まりました。相談に乗っていただける人が殆どゼロの一年間は私の人生にとって“自分自信を見つめる”誠に有益な機会でした。この留学における私の最大の失敗は留学期間中に出来た多くの友人たちとその後の連絡を密にしなかつたために、時が経つにつれて音信不通となり貴重な人脈を失ったことでしょう。これから留学する諸兄姉はこの轍を踏まぬよう帰国後もまめに連絡を取られるよう老爺心ながら希望する次第です。



財団奨学生・学友委員  
坂井孝彦  
(東大阪 RC)

PSC の皆さんの日頃のロータリー活動への協力、新規奨学生への支援活動に感謝申し上げると共に、その真摯な活動に敬意を表します。

奨学生の選考に当たっては、奨学生候補の皆さんとの語学能力で果たして留学先で充分の勉学・研究を続けられるだろうか、また留学先のロータリーアンとの交流や地域社会における国際親善の役割を果たしてくれるだろうかとの不安があります。先般アメリカに留学中の M 君から便りがありました。彼は選考時、学業成績は優秀ではありましたが、語学の点では若干の不安がありました。大学院で政治学を勉強中の M 君は、昨年留学先の教授から海外出張中に学部生向けのクラスを代講するよう要請を受けました。彼にとっては荷の重い

課題ではありましたが、これを引き受け、充分の準備をして日本で行われた「総選挙の争点」等について一時間の講義を行いました。講義終了時には受講生から大変な拍手が起つたとの事あります。またすでに 5 つのロータリークラブの例会に 8 回招かれ、30 分程度の日本に関するスピーチを行つたと報告しています。

語学力も充分に向上し、研究の成果を携えて今年の夏には帰国の予定ですが、帰国後は後輩達へのアドバイスを行う等 PSC 会員として大いに活躍してくれることと期待しています。



財団奨学生・学友委員  
島井宏子  
(大阪北梅田 RC)

選考委員として今年度初めて参加し、又帰国後の PSC 活動を支える会長以下役員の方々と接し、考え方せられた事が幾つかあります。

奨学生に選ばれ、多くの貴重な体験を通して各々帰国されたと思います。「国際親善」の名の下にそれぞれの国で十分その責務を果たされた事と期待していますが、残念ながら帰国後の活動に全員がその結果を何らかの形で出し切れていないのではないでしょうか。役員の皆様の真剣かつ多大な努力を見るにつけ、その熱意が伝わり切らないもどかしさを感じました。「親善」とは、その後の友好に発展して結実するのです。一年あるいは二年で成し遂げられなかった事、こうして良かった事、ああすべきだった事等を後輩に託し、帰国後は互いに助け合い経験を倍増できる関係を築いてほしいと思います。帰国後、他県や海外で活躍されている方も多いしょう。又、外国の奨学生ともコンタクトを取り続けていらっしゃる方もいるかもしれません。IT の時代、どこにいても体験を共有した優秀な alumni の輪を、ロータリーで学んだ「奉仕」の姿にして下さることを期待してやみません。

# I. 2002~2003年度 PSC活動報告

PSC (Past Service Club) は、第 2660 地区ロータリー財団国際親善奨学生として留学した OB/OG からなる組織で、後に続く奨学生たちの留学準備を支援し、また留学経験を広く社会に還元するために様々な活動を行っています。以下は 2002~2003 年度の PSC 活動記録です。

## A. 2002~2003年度PSC役員

( ) 内は、留学年度と留学国

会長	弓庭 (97 タイ)
	濱崎 (97 ブラジル)
企画	濱崎
	中原 (90 アメリカ)
	牧尾 (99 オーストラリア)
	手島 (00 スペイン)
会計	春田 (97 イギリス)
書記	内村 (00 イギリス) 里井 (00 イギリス) 淵上 (98 イギリス)
	高木 (01 タイ)
副会長	春田 内村
ML 管理	友國 (97 アメリカ)
役員 ML 管理	斎藤 (00 イギリス)
HP 準備担当	石田 (93 アメリカ) 山下 (93 ドイツ) 清原 (95 ドイツ)
パストボードメンバー (元役員として活動全体の支援および現役員のサポート)	藤本 (元 PSC 会長 88 アメリカ) 小林 (元 PSC 会長 93 カナダ) 長尾 (元 PSC 会長 96 カナダ) 西海 (元会計チーフ 98 アメリカ) 吉澤 (元書記 98 ドイツ) 瓜生 (元書記チーフ 99 フランス)



オリエンテーションの様子

## B. PSC例会記録

PSC では留学に関する情報交換の場として例会を催し、奨学生候補者とその顧問ロータリアンを招待しています。例会は 3 ヶ月に 1 度、土曜日に行われ、奨学生候補者の自己紹介や留学準備進捗状況の報告、留学に関する質疑応答などから成ります。

### PSC総会

日 時：2002年9月7日（土）

於：大阪 YMCA

参加者：財団学友委員 5 名/PSC 役員 13 名  
帰国奨学生 3 名

内 容：

1. 旧年度の PSC 事業報告
2. 会計報告
3. 新年度の PSC 事業計画

#### <広報活動案>

- ・PSC だより No. 17 の発行
  - ・卓話依頼に積極的に参加
  - ・地区大会等のロータリー行事への参加
- #### <組織強化案>
- ・役員の仕事分担は前年度を踏襲
  - ・新規役員のリクルーティング強化による、各メンバー仕事量の平準化
  - ・チーフノミニー制度の継続
  - ・PSC 会員同士の親睦向上をはかる（例会以外の企画）
  - ・奨学候補生に対する PSC の PR

#### <サポート体制>

- ・奨学候補生に対するアンケートの実施による、サポート体制の充実
- ・ホームページの立ち上げと留学生マニュアル本文の掲載
- ・留学中の奨学生へのサポート

4. 新年度（2002-03 年度）役員改選

## 第2回PSC例会

日 時：2002年10月12日（土）  
於：薬業年金会館  
参加者：中野担当パスト・ガバナー/財団奨学生・  
学友委員7名/奨学生候補者15名  
顧問ロータリアン11名/文化研修生1名  
PSC会員6名

浜崎PSC会長の司会で、開会の挨拶と、2002年度新役員の紹介の後、中野財団担当パスト・ガバナーから来賓挨拶および2003-04年度国際親善奨学生候補者への激励を頂きました。続いてニュージーランドから来日中の2002年度文化研修生で、本国で日本語も教えておられるルース・マーリスさんから、スピーチがありました。その後、指定教育機関決定までの準備に関して、奨学生候補者とPSCメンバーとの間で質疑応答が交わされた後、佐藤俊一財団奨学生・学友委員長の乾杯の音頭で一同歓談に移りました。うちとけた雰囲気の中、有意義な情報交換が行われ、溝畠副委員長の閉会の辞をもってPSC例会を終えました。

## 第3回PSC例会

日 時：2002年12月7日（土）  
於：ガバナー事務所会議室  
参加者：井上ガバナー/中野担当パスト・ガバナー  
財団奨学生・学友委員9名  
PSC会員7名

内 容：

1. 財団奨学生・学友委員会より
  - ・2004-05年度国際親善奨学生募集
  - ・2004-06年度ロータリー平和奨学生募集
  - ・第2回オリエンテーションについて
2. PSCより
  - ・浜崎PSC会長より上半期活動報告
  - ・内村書記より「PSCだより」編集経過報告

## 第4回PSC例会

日 時：2003年3月15日（土）  
於：国際交流センター  
参加者：中野担当パスト・ガバナー/財団奨学生・  
学友委員7名/奨学生候補者15名  
顧問ロータリアン6名/帰国奨学生4名  
PSC会員10名

内 容：

<PSC例会>  
国際ロータリー第2660地区2002-2003年度地区大会（5月9日・10日：於大阪国際会議場）における、PSC紹介パネル（90×180cm）案作成・掲示要項の確認、及び参加者と壇上紹介PSC4名の決定。

<PSC主催懇親会>

NHK見学、大阪歴史博物館におけるオリエンテーションの後開かれた懇親会では、帰国奨学生によるスピーチがありました。

1. 牧野直史さん（オランダ・ライデン大学）  
国際機関の見学も含む充実したプログラムで勉強できました。カウンセラーの温かいお気遣いに支えられました。生活面では最初英語で苦労しました。奨学生候補者の皆さんには準備期間中に語学力をできるだけつけておかれることをお勧めします。

2. 富田みづ穂さん  
(コスタリカ・コスタリカ大学)

最初に受けた語学研修は、友達を作る上でも生活面でも役に立つものでした。カウンセラーご夫妻には大変お世話になりましたが、娘さんも同じ大学に通っておられたこともあり、交流がさらに広がりました。ロータークトや中南米コスタリカならではの楽しい地区大会にも参加しました。国際親善奨学生としての留学は充実したもので、この経験を社会人生活にも役立てたいと思います。

3. 村由記子さん  
(オーストラリア・アデレード大学)

留学当初からホストロータリアンご夫妻には大変お世話になりました。オーストラリアは物価が安く、人口も少なく、土地も広いので、総じてのんびりしています。大学で学んだ英語教授法は、日本で高校教師を目指す自分にとってとても役に立つものでした。1年間で英語力も飛躍的に伸びたと思います。自分の留学経験をこれから的人生では非社会に還元していきたいと思います。

#### 4. 南谷佐智子さん

(イギリス・マン彻スター工科大学)

他の皆さんとは異なり、私が受けたカルチャーショックという切り口で報告させて頂きますと、特に会話の速さ（自己主張のために早口・大声・割り込みが普通）・お酒の飲み方（パブなどで性差によるお酒の注文に差がある）・大学教育制度及びその考え方の違い（入学後でも自分の進みたいコースに変更できるような柔軟性をイギリスでは当然のこととして認める）を強く感じました。



南谷さんのスピーチ

#### 第5回 PSC例会

日 時：2003年6月28日（土）

於：大阪YMCA

参加者：井上ガバナー/若林ガバナー・エレクト  
中野担当パスト・ガバナー/財団奨学生・  
学友委員7名/奨学生候補者16名  
顧問ロータリアン/帰国奨学生2名  
PSC会員11名

PSC例会では下半期活動報告がありました。引き続き国際親善奨学生歓送会が行なわれ、2002年度国際親善帰国奨学生のヌルッザマン・アブルバシヤルモハメッドさん（アメリカ）と2001年度マルチイヤー奨学生の阿南順子さん（アメリカ）の帰国報告がありました。



忘年会の様子

#### C. PSC活動報告カレンダー

PSCでは例会以外にも様々な活動をしています。以下は2002～03年度の活動記録（例会は除く）です。（PSC会員は敬称略）

2003.9.7

#### 国際親善奨学生帰国報告会

於：大阪YMCA

※出席者は「PSC総会」に記載

##### 1. 城本 亜紀子さん

(2000-2001年度トルコ・マルマラ大学)

規則があつてないようなお国柄ですが、柔軟なところもありました。ワールドシリーズでは、国を挙げての大騒ぎで、特にセネガルに勝った時にはお祭り騒ぎになりました。滞在許可証を取るのに苦労したり、家探しなど日常生活上のことで困りましたが、かえってそれがその国を知る切っ掛けになるので、奨学生候補者の皆さんにも頑張ってほしいです。

##### 2. 渋谷 敦志さん

(イギリス・ロンドンインスティテュート)

成熟したすばらしいクラスメートとともにフォトジャーナリズムを学びました。滞在中は、他のロータリー奨学生とも親交を深め、夏には、アンゴラへ国境なき医師団を取材に訪れました。さらなる勉学のため、再渡英の予定です。

##### 2. 若林 翼さん

(アメリカ・UCLA ロースクール)

9月11日のテロでは、アメリカ人の二面的な国民性を痛感しました。クラスメートと楽しい時間を過ごし、同世代のホストロータリアンとは友達付き合いができました。留学はつらい時もありましたが、海外での一人暮らしは、自信につながりました。

4. 高木 美香子さん（タイ・チュラロンコン大学）  
意義ある勉学生活を送ることができました。地元のロータリークラブやNGOのミーティングでの通訳やお手伝いの仕事を通して、その場の一体感を作り上げるよい経験が得られました。

##### 5. Lee, Seok Kiさん（文化研修生）

ロータリーによる留学で、ホームステイなどを通じて、日本や日本人に対する考え方方がよい意味で

変わり、日韓の異文化理解の重要性がよく分かりました。この気持を持って韓国に帰りたいです。

2002.10.5

### 第 2660 地区ロータリー財団セミナー

於：大阪YMCA

出席者：弓庭(97)・西村(99)

西村さんが国際親善奨学生としての留学報告、弓庭会長が PSC の活動について報告しました。

2002.12.7

### 忘年会

於：オ・セイリュウ

※出席者は「第3回PSC例会」に記載

忘年会より 2003-04 年度奨学生候補の杉浦さん、中川さん、立野さんが出席され懇親を深めました。9 時より同場所にてブラジリアンショーを楽しみました。

2002.11

### ロータリー財団月間における卓話

日時	招待 RC (会場)	卓話者 (留学年度)
11.6	枚方くずは RC (京阪くずは会館)	牧尾(99)
11.6	東大阪 RC (都ホテル大阪)	内村(00)
11.6	守口 RC (守口プリンスホテル)	斎藤(00)
11.7	豊中南 RC (ホテルアイボリー)	若林(01)
11.7	大阪難波 RC (南海サウスタワー大阪)	手島(00)
11.8	大阪大手前 RC (帝国ホテル大阪)	斎藤(00)
11.11	大阪西 RC (阪神百貨店)	中原(90)
11.14	吹田 RC (サニーストンホテル)	牧尾(99)
11.21	大阪リバーサイド RC (中ノ島センタービル)	手島(00)
11.28	大阪大淀 RC (ザ・リッツ・カールトン大阪)	若林(01)
以上 10 件		

2003.1.18

### 新年会

難波の「なみなみ」で楽しく行なわれました。

2003.4.23

### 地区大会シンポジウム

#### 「新世代に引き継ぐ奉仕の理想」打合せ会

於：ガバナー事務所会議室

出席者：弓庭・濱崎・斎藤

青少年合同会議メンバーの紹介においての登壇後の進行・インタビュー内容についての打合せ

2003.5.2

### 「P S C だより」完成慰労会

於：羅漢

参加者：財団奨学金・学友梅崎委員

石田・里井・弓庭・牧尾・内村

2003.5.10

### 国際ロータリー第 2660 地区

#### 2002-2003 年度地区大会

於：国際会議場

出席者：弓庭・濱崎・川中・春田・牧尾・斎藤・

手島・里井・内村 (PSC)

浜田・堀井・飯田・福嶋・奥田・立野・

松上・西山 (国際親善奨学生)

記念シンポジウムにおける青少年合同会議メンバー紹介においては、弓庭・濱崎・斎藤・手島の 4 名が登壇し、斎藤・手島両名が PSC 活動について発表。

**D. 第2660地区ロータリー財団奨学生学友会 (PSC)**  
**2002年7月～2003年6月 会計報告**

(単位:円)

**前年度よりの繰越金** 950,943

**●収入の部**

1)例会会費・参加費	2002年9月	10,600
	12月	85,000
	2003年6月	15,000
		小計 110,600
2)PSC 協力金 奨学生一人あたり 20,000 円×18 人		360,000
東大阪・東大阪中央・茨木・茨木東・茨木西 箕面(2名)・大阪阿倍野(2名)・大阪東 大阪本町・大阪西南・大阪城北・大阪住之江 高槻・豊中(3名)		
3)銀行利息		143
4)雑収入		1,791
<b>収入合計</b>		<b>472,534</b>

**●支出の部**

1)例会費	2002年9月	41,105
	10月	4,811
	12月	151,088
	2003年6月	55,274
		小計 252,278
2)PSC だより印刷・発送費		120,380
3)奨学生用名刺作成・印刷費		61,845
4)地区大会打ち合わせ費・ボード作成費		16,658
5)国際大会案内パンフコピー費		6,300
6)振込手数料		1,995
7)雑費		2,961
<b>支出合計</b>		<b>462,417</b>

**次年度へ繰越金** 961,060

2003年6月30日

PSC 会計 春田 かおり

## E. 第2660地区PSCメーリングリストについて

国際ロータリー第2660地区学友会(PSC)のメディアのひとつとして、メーリングリストを 1996 年以来運営しております。メーリングリストとはインターネットのサービスのひとつで、メーリングリストアドレス宛に送られたメールが購読者全員に配信される同報メールサービスのことです。情報を共有・蓄積しやすいのが特徴です。

- ◆ 本メーリングリストは、国際ロータリー第 2660 地区に限らず、他の地区も含めて、
  - ・国際親善奨学生候補者として選出された方
  - ・現在奨学生として留学中の方
  - ・元奨学生
  - ・ロータリークラブメンバーである関係者を対象とした、「クローズド(非公開)」のメーリングリストです。
- ◆ 他地区の奨学生(候補)の方も大歓迎です。
- ◆ 奨学生のプライベートな情報(住所や電話番号など)もやりとりされる場合がありますので、クローズドなものとして運営しており、メーリングリストの存在 자체を上記関係者以外に伝達することは遠慮願っています。ログファイルの閲覧場所についても同様です。
- ◆ 留学準備中の候補者も含めて、相互に情報交換やサポートをしあう場(Give and Take)であります。みなさんのメーリングリスト上でのやりとりは購読者全員に共有され、また蓄積されます。次年度以降の奨学生候補者に必ず役に立つ情報となります。一対一の個別メールのやりとりはその場限りのものです。メーリングリスト上では、たとえ一対一のやりとりであっても他の購読者がそれを参考にすることができます。
- ◆ 奨学生としての共通の経験を有する者としての交流を支える場であります。PSCでは各種のミーティングやイベントも行われています。その案内はメーリングリスト上でなされます。
- ◆ その時だけでなく、過去ログファイルを通じて、将来の奨学生候補者の参考にもなります。失敗談だけでなく、成功談も、いつごろどんな手続きを取ればいいのかの標準がわかるわけですから、どんどんメールを投稿してください。
- ◆ このメーリングリストは、第2660地区ガバナー事務所も地区財団奨学金・学友委員会のロータリアンも購読されています。メーリングリストに投稿すれば、出欠などの連絡も届きますし、他の奨学生候補者に対する注意喚起にもなります。

### 購読申込方法

- ◆ 問い合わせ・購読申し込みは、  
[ri2660pscadmin@eastmail.com](mailto:ri2660pscadmin@eastmail.com)までメールでお願いします。
- ◆ 本メーリングリストへの投稿は、どんな環境でも読めるようにテキストメールに限らせていただいています。必ずテキストメールを送るようにソフトウェアを設定してから申し込んでください。
- ◆ 申込みの後、購読手続きが済み次第案内メールが届きます。そこには過去メール閲覧のしかたも書いてあります。(メーリングリスト自体は主に日本語でやりとりされています。)

### メーリングリストを購読したら何をすればいいのか?

- ◆ まず簡単な自己紹介(推薦RC、留学希望国、留学希望分野なども御記載ください)をメーリングリスト宛に投稿していただくことが最低限の参加の要件です。
- ◆ あとは「成功事例」も「失敗事例」も「近況報告」でも情報を蓄積するという意味で可能な限りメーリングリスト宛てに投稿してください。

## ● コラム 奨学生OB/OGはいま

Ritsu Nacken (旧姓: 森野)

1999-2000 年度/アメリカ

Milano Graduate School of Management and  
Urban Policy, New School for Social Research

推薦クラブ: 大阪梅田東 RC

4年前に大学院に行くためにNYへ引っ越しした時には、NYの次にはフィジーに行くことになるとは、夢にも思いませんでした。大学院を卒業後1年間、NYの国連開発計画(UNDP)本部でコンサルトとして働いていましたが、その後2002年11月から、同じくUNDPのフィジーオフィスで勤務しています。フィジーというとパラダイスのイメージを持つ方が多いと思いますが、私たちのオフィスは南太平洋10か国を管轄しており、その中にはソロモン諸島やバヌアツ、ツバルなどの最貧国と言われている国々も含まれています。

フィジーでの私の主な仕事は、南太平洋にある9つの国連組織のコーディネーションです。国連というと、PKOや安全保障理事会がよく知られていますが、UNDPやUNICEFを含めた「国連ファミリー」に属する組織が各途上国で行っている地道な活動が、貧困削減に向けた具体的な変化を引き起こしていると思います。各組織は途上国政府や非政府組織(NGO)とのパートナーシップに基づいて、それぞれプロジェクトを行っています。これらの国連組織の活動内容は、重なるまたは関連することが非常に多く、より効率的な活動のために、国連組織間のコーディネーションの重要性が叫ばれています。例えば、今までばらばらに活動していた国連組織が、ここ数年は協力してプロジェクトを行う例が見られるようになりました。私が担当しているソロモン諸島でのプログラムもその一つです。

もう一つ、私はUNDPの「ジェンダー」担当官という仕事もしています。ジェンダーというのは、ご存知の方も多いと思いますが、社会的・文化的に決められた男女の役割のことを言います。日本に住んでいた頃、女性であることからくる差別や偏見を強く感じていた私にとって、ジェンダーと開発の問題について学び、ジェンダーの視点

からプロジェクトなどにアドバイスするのは、大変面白い仕事です。つい先日も、人権問題の専門家と共に、ソロモン諸島の新しい国家経済発展計画書のジェンダー分析レポートを書き上げたところです。

ジェンダーへのこだわりを実践している、と思われてしまうかもしれません、プライベートでは、ドイツ人のパートナーにすっかり主夫業をまかせています。こういうカップルはやはりまだ珍しいらしく、驚かれることも多いですが、私は家事が苦手で、彼は料理が大好きなので、私達にとってはベストな役割分担と言えます。2人で、少なくともあと10年は私のキャリアを優先することに決めているので、責任は感じますが、しっかり家を守ってくれる(?)パートナーがいるのは本当に心強いです。

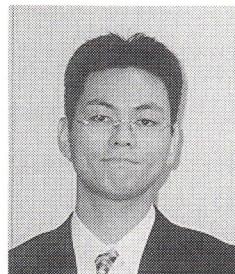
ロータリー財団の奨学金を頂いて日本を離れてから、もう4年以上がたってしまいました。まだ数年は日本に戻ることはなさそうですが、将来的には自分の経験をこれから留学する方たちに還元できたらと思っています。



## II. 留学体験者の声

ここでは、すでに留学生活を開始された奨学生の現地からの第1回報告と、無事留学を終えられた奨学生からの帰国報告をご紹介いたします。

ロータリアン諸氏には、第 2660 地区から旅立った奨学生が国際親善使節として各地で活躍する様子をご覧いただければ幸いです。またこれから留学される方々には、留学生活の参考資料として活用して頂ければと思います。



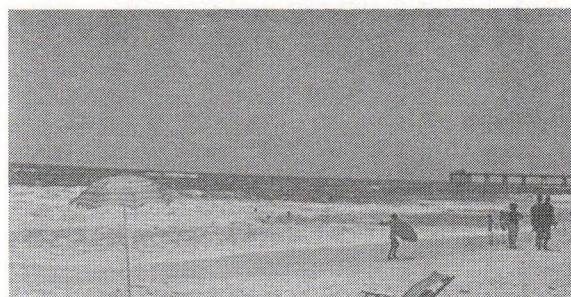
松本 俊太  
2002-2003 年度/アメリカ  
フロリダ州立大学  
推薦クラブ: 東大阪 RC  
奨学金タイプ: マルチ

私はフロリダ州立大学政治学部に在籍し、アメリカの議会政治を研究しています。同時に京都大学法学研究科の博士後期過程に学籍を残しているため、時折日本から送られてくる仕事にも追われております。けれども日本とアメリカの大学院教育を同時に体験できるのは大変貴重なことで、今でも発見の連続です。まず、アメリカでは規定の成績に達しない場合、退学になることが現実にあります。私も1年目は、課題の採点が返るごとに一喜一憂する日々が続き、寝食を削って机に向かうサバイバルを体験しました。本当に過酷な毎日でしたが、非常に効率的なトレーニングで、研究者としての底力を身につけた1年目だったと思います。幸いにも2年目は、オフィスと先生の研究補助の仕事を提供していただき、今度は、世界的な「公共財」ともいわれる、アメリカの大学院教育の魅力を体験しています。先生のお手伝いはトレーニングの一環という位置づけで、例えばデータの作り方や最新のソフトの使い方などをマンツーマン教えていただけます。昨年10月には、先生から急遽、学部の授業を代講するよう指名され、緊張しながらも、90年代以降の日本政治と11月の総選挙の見通しをテーマに、80人の学生を相手に講義を行いました。

アメリカの大学に留学することの魅力は、アメリカの文化に触れるだけではなく、世界中から集まる先生や学生との交流にあると思います。フロリダ州立大学は、3万人以上の学部生や、スポーツ、様々な芸術関係の学部で賑やか（例えば、全

米で唯一、サーフィンを学ぶ学科があります！）なのと対照的に、タラハシーという町は、州都にもかかわらず小さな町です。町全体が、大学を中心にうごいている印象をもっています。大学のスポーツや、映画や音楽の製作発表など、大学内で連日何かのイベントが行われます。こうしたイベントを通じてだけでなく、例えばちょっと知り合った学部生や留学生とお互いの国について話し�込んだり、次の日にはサッカーをしたりできるのは、大学がもつ開放的な雰囲気のおかげだと思います。ここで実感したのは、世界中の人々の間の違いや壁は、日本人が考えているよりも小さいということです。フットボールをスタジアムで観戦して勝ったときには喜び、戦争が始まると、意見は違つても真剣に考え方議論する、これは国籍を問わず同じなのだということに気づきました。

このように充実した学生生活を送っているのは、現地のロータリアンの方々の支援のおかげでもあります。生活の立ち上げから始まり、（日本人には不慣れな）自動車の保守管理を教えていただくなど、困ったときは何でも相談できるのは本当に有難いことだと思います。例会等には10回以上お邪魔させていただき、うち2度は、大阪の文化について30分の報告を行いました。中でも印象的だったのは、4月に行われた地区大会で、メキシコ湾に面したビーチで2泊3日で行われました。私は期末試験の最中だったため、日帰りだったのですが、すでに海水浴ができる状態で、つかの間の休息を楽しめました。



これを読むであろう候補生の方々へのアドバイスでこの文を締めるべきところですが、役立ちそうなアドバイスはできません。留学をめぐるあらゆる状況は刻々と変わりますし、留学先によって、全く事情が異なると考えるからです。期待を裏切られることもありますが、意外な楽しみが見つかることもあります、行った先に何があるかは、行ってみなければ分かりません。充実した留学生活を送るのには、変化や意外性を楽しめるだけの、最低限の心の余裕をもつよう心がけることではないか、ということが、自戒をこめてのアドバイスになるかと思います。



方山 朋香  
2002-2003 年度/ドイツ  
ワイマール音楽大学  
フランツリスト音楽院  
推薦クラブ: 東大阪東 RC  
奨学金タイプ: マルチ

早いもので、もうこちらにきて2度目の冬を迎えるました。昨冬はドイツ人にとってもかなり寒い冬だったらしいのですが、今年は暖冬で、雪も比較的少なめです。

私は今第7学期に属していて、来学期で卒業予定です。初めの半年から一年にかけては語学や生活、全ての面で慣れないことだらけでしたが、一年を過ぎてようやく自分の専門分野に集中することができるようになってきたように思います。私のいるワイマール音楽大学では、ちょうど私の入学した学期より留学生に対する規則が変わり、日本で音楽大学を卒業していても、単位の振替がきかず、卒業するためには、専門の実技試験だけでなく、ドイツ人学生と同じように科目の授業と学科試験、口頭試験が課せられています。専門のフルートや室内楽、オーケストラで時間も頭もいっぱいなのに、どうやってそれらをこなせるのか、と初めは絶望にも似た気持ちでしたが、一緒に寮に住んでいるドイツ人たちが、難しい資料を私が理解するまで根気強く説明してくれたり、そういう助けもあって、今までに7つの試験にパスすることができました。

この2月には、残り2科目の試験を受ける予定です。来学期は一番大事な実技の卒業試験（演奏

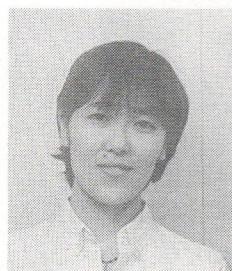
会形式）が待っているのでなんとしても今学期中に、学科試験をすべて合格してしまいたいと、勉強中です。

フルートは、毎週のレッスン、室内楽、オーケストラ、その練習や合わせで毎日7~10時間くらいは吹くことになります。こちらでは日本よりもっと音楽が人々の生活に根ざしていて、演奏会も盛んで、たくさんいい音楽を聴くことができますし、私自身の本番の機会も日常的にやってくるのでとてもいい訓練になります。

二週間に一度は近くのお年よりセンターのホールでコンサートが定期的に行われていますし、その他諸々学内のコンサート、最近では一月末にフランツリストゆかりの家で演奏しました。また学外では、中部ドイツ室内オーケストラの臨時団員として仕事を兼ねてふかせて頂いたり、ワイマール国立管弦楽団のオペラ公演でワーグナーの「さまよえるオランダ人」舞台音楽で吹かせて頂いたり、実践の機会にも恵まれています。

こうして安心してワイマールで思い切り勉強させて頂いているのも、日本とこちらのロータリアンの皆様のおかげで、感謝の気持ちでいっぱいです。ワイマール RC では、昨年もクリスマス礼拝に参加したり、収穫祭（ワイマールでは「たまねぎ祭り」）での出店のお手伝いをしたりしました。特に印象深かったのは、昨夏、こちらのロータリアンの方がご自身の趣味でいらっしゃる生け花の展覧会を催されたのですが、このワイマールの町ゆかりのゲーテやシラーの詩を主題に、それぞれの生け花を展示されていたことです。日本とドイツの文化がうまく融合しあっていて、本当に素敵でした。

残念ながら5月の国際大会の時期は、学期中で学校のオーケストラの定期演奏会とも重なっているので、帰国できませんが、卒業後、（無事できますように！！）、また日本の皆様にお会いできお話できる日を、楽しみにしています！！

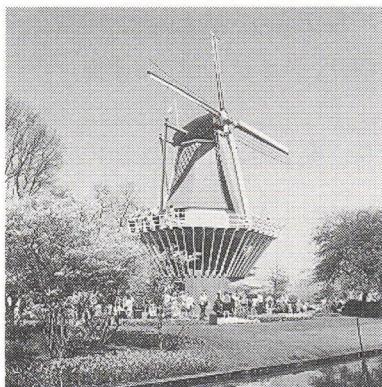


丹羽 千代子  
2002-2003 年度/オランダ  
ライデン大学  
推薦クラブ: 池田くれは RC  
奨学金タイプ: 1 学年

留学するかなり前から大学の学生センターに登録して部屋が空くのを待っていたのですが、結局日本を発つ前に部屋を見つけることができなかつたので、少し不安でした。しかしホストロータリアンのDr. Knook 氏のおかげで、大学から徒歩20分ほどの運河沿いにある学生寮に落ち着くことができました。ライデンでも指折りの古い歴史のある建物で、各国からやってきた留学生と共にとても静かな環境で生活することができました。

Dr. Knook 氏は奥様と共にいつも私を気にかけてくださいり、夕食に招いていただいてライデンの歴史や毎年10月3日に行われる独立祭について教えていただきました。ライデン市民がスペイン軍の包囲から開放されたことを祝うそのお祭りでは、早朝からライデンの歴史的な場所を巡るツアーに参加し、大勢のライデン市民と共にオランダ国歌を歌ったり、開放された時に食べたという伝統的なニシンの酢漬けと食パンを食べたりして、オランダの風習を体験しました。

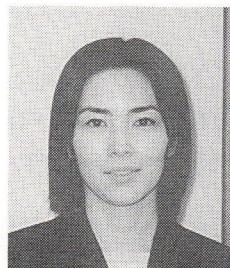
ライデンのロータリークラブの会合には、3回ほど招かれました。12月にはロータリーのみなさんとユダヤ教のシナゴーグでラビのお話を聞き、ナチスに迫害された経験のある方からもお話を聞きました。オランダ語だったのですが、隣りに座っていたDr. Knook 氏の奥様が英訳してくださいたおかげで、理解することができました。自分の研究テーマであるボロブドゥールのことを発表した時には、インドネシアを旅行してボロブドゥールに実際行ったことのある方々から、盛んに質問を受けました。自分の研究課題をきっかけにして、みなさんといろいろな話をすることができて充実した時間でした。



研究の面では、ライデン大学の図書館に保存されている貴重な写真を、時間をかけて細かく調査

することができました。指導教官にも恵まれ、しっかりととした研究方法を確立し、これからの自分の研究の方向性について考えることができました。3月には、指導教官の推薦で、大学から奨学金を受けながら Ph. D. 論文を書くポジションを申請しました。5月の最終選考まで残ったのですが、残念ながら最後の5人には残る事ができず、7月に日本に帰国しました。

オランダでは大学においても街に出ても、ほとんど全ての人が英語を流暢に話すため、英語のみで生活することができます。私はオランダを近くに感じて、現地の人との交流をさらに円滑にしたいと思い、留学前に自分でオランダ語を勉強したり、ライデンでも集中講座に参加したりしてオランダ語習得を努力しました。しかしながら普通に会話をするまでは到らず、すべて英語で発言・発表することになってしまったのが悔やまれる点でした。



鳥居 玲奈  
2002-2003年度/ブラジル  
ブラジリア大学  
推薦クラブ: 箕面RC  
奨学金タイプ: マルチ

私は2003年2月からブラジルサンパウロ州中部にあるアララクアラという町に滞在しています。国際空港のあるサンパウロ市からはバスでおよそ4時間半の小さな田舎町で、ここには、多くの沖縄県出身の日系移民が暮らしています。ブラジルでは、日系人が多く住む町にはたいていニッポ(日伯文化協会)と呼ばれる協会があり、週に何度も集まって会合が開かれます。それは、日本文化を継承する目的で行われ、アララクアラもその例外ではありません。ここにもニッポがあり、主に沖縄の民族舞踊や民謡が大会や発表会を通してブラジル生まれの日系人に今日まで受け継がれてきています。私も何度もそういった集会に参加させてもらい、多くの日系ブラジル人と知り合う機会に恵まれました。彼らとのコンタクトを通して、ブラジルへ渡った日系人がどれほどの苦労をして現在の社会的地位を得たのか、そして、彼らがどんな辛い境遇にあっても絶

対に日本文化守ろうとする姿勢を崩さなかったこと等を聞かされました。実際に移民時代を生きた人々から生の体験談を伺う機会も多々あり、結果的にそういった人々から日本について色々と教わることになりました。どれほど彼らが日本文化を重視し、現在までもそれを守ろうとしているのか、それがどれだけ価値のあることなのかを現在においても彼らを通して学んでいます。こういった貴重な経験をさせてくださっているロータリーの皆様に心から感謝しています。



石丸 久美子  
2002-2003 年度/フランス  
ナント大学  
推薦クラブ: 箕面中央 RC  
奨学生タイプ: マルチ

マルチ・イヤー奨学生としてフランス・ナントに留学してから、早くも一年四ヶ月が過ぎようとしています。こちらでは、ナント大学言語学科 DEA (博士論文執筆資格) 課程に在籍中です。もう今はこちらの生活にすっかり馴染んでしまっていますが、今思えば、一年前は色々な苦労がありました。

まず、ナントは大変な住宅難(特に学生の)で、住居探しには苦労しました。私が到着したのは8月末頃。困り果てた私は顧問ロータリアンに連絡を取ったのですが、フランスではまだヴァカンスシーズンということもあり、顧問ロータリアンは、未だヴァカンスから帰ってきていませんでした。偶然にも、一足先に戻っていらした顧問のご主人(ロータリアンではないのですが、この時は本当に彼が神様に思えました。)が知り合いの不動産屋等に問い合わせをし、探し回って下さり、ようやく住居が決まりました。しかし、そこも 10 月からのみ入居可能ということで、結局、顧問ロータリアンのお宅に一ヶ月間ホームステイさせて頂く事になったのでした。また、いざ入居の時には、家具なしのワンルームということもあり、家具は、すべてホストロータリークラブの会員の方々が色々と持ち寄ってくださいり、私のナントでの一人暮らし(人生初めての)がようやく始まったのでした。

以降、ナント・ドブル RC には、ほぼ月に一度は会合・夕食会に参加させて頂いています。2002 年 10 月 19 日にはロータリーの 75 周年式典があり、ナントの 6 クラブが集まりました。そこには、私は、他のロータリー奨学生(日本人 2 名)と共に着物を着て参加致しました。また、2003 年 6 月には、私のスポンサークラブ(箕面中央 RC)のロータリアンの方々が、フランス・オルレアン RC (姉妹提携クラブ) の 70 周年記念式典にいらっしゃいました。その際には、私も通訳として、シュヴェルニー城での晩餐会に参加させて頂くという、一生に一度ともいえる、貴重な、本当に素晴らしい経験をさせて頂くことができました。このように、ホストクラブだけではなく他のクラブのロータリアン方々との出会いは大変良い思い出となりました。



オルレアン RC 記念式典にて

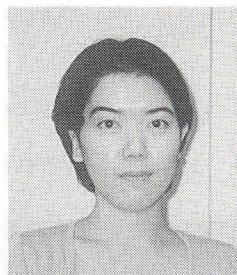
以上、フランスで2年目の生活を向かえるに当たって、これから後の奨学生に私がお勧めしたいのは、留学中、日常・大学生活で何か困った時はすぐに顧問ロータリアンを始め、周りの友人等に相談することです。やはり、外国では、母国では思いもよらないことにも絶えず行き当たります。そんな時、決して一人で悩まず、他の人に相談することは、外国では、日本に居る時以上に本当に力となります。大学でレポート一つ書くにも、外国人である場合、添削等、必ず友人の貴重な手助けなしには成し得ません。

そして、暫くして生活に慣れたら、思う存分、毎日を楽しんでください(勉強するのはもちろん。また、時に辛いこともあります)。今この時、留学という貴重な人生の一時でしか経験できないことが本当にたくさんあります(あります!)。それを一つでも多く人生の糧として持つて帰れるようにしてください(…と、これは、まさに私自身への言葉でもあります)。ロータリーラー奨学生として留学することは、きっと他では経験できないことが待っているはずです。楽しみに

していください。



ナント・ドブレ RC 左・今年の会長  
右・顧問ロータリアン



杉江 明子  
2002-2003 年度/イギリス  
ダラム大学  
推薦クラブ: 大阪東淀 RC  
奨学金タイプ: 1 学年

2002-2003 年奨学生としてイギリス北部の町ダラムに一年間留学していました。その際の体験を元にロータリークラブでの活動に関して以下に数点書かせて頂きます。

私の受講していたコースは 1 年制 M.B.A (経営学修士) ですが、各国からの参加者（平均年齢 31 歳で全員 3 年以上の職務経験者）とのグループプロジェクト、グループワークを多く含み、大変興味深いものでした。コースを通じて大変モチベーションの高いクラスメイトに出会い、また、多国籍グループで働くことの意義と難しさを再認識することが出来、それらは自分にとって、今回の留学の目的に適ったことで大変満足に思いました。一方、多忙なコース日程のせいで難しくなりがちである地元のイギリス北部の人々、文化との交流もロータリー奨学生として留学できたお陰で図ることができ大変感謝しています。

ダラムに滞在した 2002 年 7 月から 2003 年 9 月までの間にイギリス北部の主にダラム周辺の町にあるロータリークラブにて月に一、二度卓話をする機会を与えられました。それらの機会を総合しての感想としては日本と関連ある人々の多さに驚いた点を挙げたいと思います。首都ロンドンから 3 時間以上離れたところに滞在していた為、地球の反対側にある日本に行ったことのある人、日本と何らかの接点を持つ人は多くはないだろうと

思い渡英しましたが、この点は全く異なっていました。自ら日本へ行ったことがある、友人/親戚が日本にいる等の理由で日本に対して関心を持っている人々が意外と多いことはこれからイギリスへ留学する方には役に立つ情報かも知れません。

卓話では、日本（大阪）の日常生活レベルの話を写真を元にしました。これは個人の意見が異なるところかと思いますが、日本の紹介をする為に 20-30 分時間が与えられたときに伝統文化の一つの話をするのも勿論良いでしょうが、もっと身近な話— 例えば日本の教育システム、日本人は本当に皆働きすぎか (?)、日本人の世代による考え方の違い等 — について語っても十分興味を持って聞いてもらえると思います。私は渡英前に大阪の町のあちこちで自ら撮影した写真をスライドで見せながら幾つかは笑いをとるように心がけて (!?) 話していました。かなりの数のロータリークラブの集まりに参加させて頂きましたが、卓話は大抵お食事後の時間に皆さんリラックスされた状況で行われ、質問等する方々も適宜ジョークを交えて上手く雰囲気を作られるので、話手の方も楽しんで貰えるように工夫できたら理想ではないかというのが個人的な感想です。なお、話の内容にもよるかも知れませんが、なるべく写真などの資料を見せながら話せたらより興味を持って聞いてもらえるかと思います。百聞は一見にしかず、ですしね。

以上、大変簡単ですが、1 年間のイギリス北部のロータリークラブでの卓話活動を経ての感想とレポートとさせて頂きたいと思います。



加藤 真理  
2002-2003 年度/カナダ  
ブリティッシュ・コロンビア大学  
推薦クラブ: 千里メイプル RC  
奨学金タイプ: 1 学年

### 『つながり』

2002 年 8 月 26 日、緊張と不安を抱えた私を乗せて関西国際空港を飛び立った飛行機は、同日午前、カナダのバンクーバーへ到着した。海外旅行には行き慣れていたはずが、飛行機を降りたって「異

国」の香りと雰囲気に包まれるとすぐに、これから長い1年を思って一気に不安感が高まった。本当にこの地で、やつていけるんだろうか…。しかし、空港到着ロビーで待っていてくださったホストロータリアンの顔を見ると、緊張の氷が溶けていった。初めて会った私をまるで日本から「帰ってきた」娘を待っていたかのように温かく迎えてくださる。カナダでの初日、私はロータリーの『つながり』を温かく感じながら、長い長い8月26日の幕を閉じた。

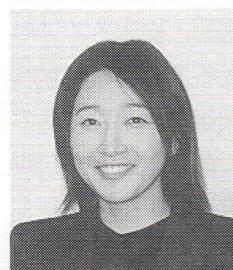
大学の第一学期が始まる。自己紹介だけはスラスラと言えるように、寮の部屋でひたすら口慣らしをし、いざ出陣。しかし案の定、自己紹介以上のことは言えずに3ヶ月の授業が怒濤のように流れしていく。山のような課題・英語に囲まれる恐怖感・自己嫌悪・劣等感…。最初の1ヶ月は、見えない何かに押しつぶされそうな日々を送った。そんな私に手を差し伸べてくれたのも、同じ寮に住んでいた現ロータリー奨学生だった。すでに任務を外れた前奨学生までもが、声をかけてくれた。

「大丈夫、みんな最初はそうだから。」「自分に多くを課さないで。」今でも忘れない言葉，“You’ll be fine!”。ここでも時と場所を越えた『つながり』を本当にありがとうございました。



2~3ヶ月が経った頃から、ロータリーのイベントや卓話、クリスマスや旧暦正月のパーティーなどにご招待いただいた。それぞれの場所でかけがえのない出逢いがあり、その後個人的にご家庭へ招待していただくこともあった。親戚が集まるご家族の夕食に一緒にさせていただいた時には、10代の娘さんと日本の若者文化について話し合い、80代のおじいちゃんとは大阪の万博について語り合った。毎日、大学の授業ではディスカッション・寮の部屋では読み物と課題ばかりに囲まれていたこともあり、家族の温かい雰囲気は私に一時の大きな安らぎを与えてくれた。

1年がたった2003年の夏、長くて短かった1年を思いながら、私はバンクーバー空港に立っていた。ロータリアンのおばあちゃんが、今朝庭で摘んだというラズベリーをガラスの器一杯に入れて、見送りに来て下さった。以前私がお宅にお邪魔した際、お庭のラズベリーを次から次へといただいてしまったことを、覚えていてくださったのだ。「真理が好きだと思って…」振り返るといつも、ロータリーを通して人ととの温かい『つながり』に支えられていたと改めて気づいた。このたくさんの『つながり』はロータリーが私にくださった大切な大切な宝物だ。他人の気持ちのわからない人間が増えたと言われる現代社会だが、より多くの人たちが私のように、貴重な体験を通して人ととの『つながり』の大切さを感じていってほしいと願う。そして私自身、今度は新たなる『つながり』を発信できる立場に立っていきたいと思う。



横田 富美子  
2002-2003年度/  
ジョンズ・ホプキンス大学  
推薦クラブ：高槻西RC  
奨学金タイプ：マルチ

皆様、お元気にお過ごしでしょうか。

今回、米国 Johns Hopkins 大学 School of Public Health にて Master of Public Health program を修了いたしましたので、ご報告いたします。(以下、公衆衛生学の専門用語など、とくに問題のない範囲で私なりに日本語に翻訳して述べておりますが、私の意訳で誤解を招きそうな場合や今後、いろいろな情報源を通し、皆様のお目にかかる可能性の高いと思われる用語についてはそのまま英語を用いております。読みにくい箇所が多くありますが、どうぞご容赦下さい。)

私の在籍したプログラムは通常の大学院修士コースにおいて、約2年分に相当する80クレジット以上を約1年間の期間に取得しなければならない、非常に内容の濃いスケジュールでした。この他、クレジット取得まで3年間の余裕のあるパートタイム、インターネットを通してアメリカ国外から受講できるプランなど、受講者のニーズに合

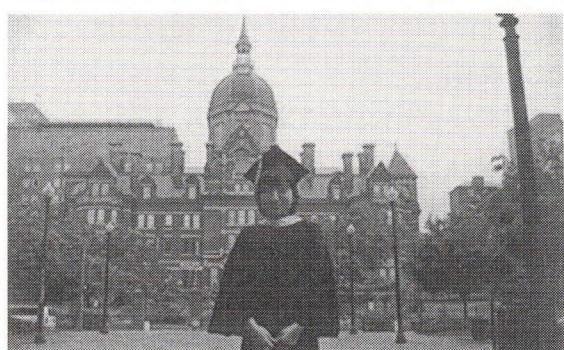
わせていろいろなプログラムが用意されています。また、Johns Hopkins 大学医学部大学院や看護大学院との合同プログラムがあり、ホプキンスの医師や看護大学院生も多数同じクラスに在籍しておりました。その他、レジデンシマッチング前の医学生、これから医学部を受験する undergraduate student、エコノミスト、弁護士、獣医など、同級生のバックグラウンドは多彩です。職業の多様性だけでなく、世界各国から学生が集まり、文化・国籍などが異なる者同士がそれぞれの意見や情報を交換しあい、活発な討論のもと、皆真剣に学んでいます。

Public Health School の校舎は、メリーランド州、ボルチモアのダウンタウンにあり、医学部、看護学部、研究センター、付属病院などに隣接しています。キャンパス内で毎日のように無料のセミナーが開催され、医学各科の専門的な内容だけでなく、医学・健康に関する非常に多岐にわたる分野 - 健康政策、環境健康科学、国際保健、健康倫理学、等 - 最新の情報に日常的に接することのできる、大変贅沢な環境といえるでしょう。私はちょうど9・11のテロ事件翌年の入学でしたので、バイオテロリズムに対して公衆衛生学的な観点から行なうことの出来る対策に関する特別セミナーは特に力をいれて行なわれておりました。その他、SARS のアウトブレイクなどもあり、例年に比べてさらに、熱い話題には事欠かない一年であったと思われます。National advisory council on public health preparedness (国家顧問委員会、でしょうか) の会長で、ホプキンスの対バイオテロ対策研究チームの責任者でもある Dr. D. A. Henderson による smallpox ワクチンのセミナー や、Deputy for the U.S. Surgeon General for Homeland Security and Disaster Medicine (国家安全対策における公衆衛生の親玉、ということだと思います) である Dr. Eric Noji の講義や、SARS の緊急公開討論のときなどは、各マスメディアも集まり、この国における "Public Health" という分野に対する認識の高さと重要性を肌で感じました。また、緊急患者搬送システムに関する授業などは、もともと脳神経外科医として、緊急手術の多い臨床に従事していた私にとって、大変興味深いものでした。メリーランド州は効率的・効果的に外傷患者を治療できるよう、州立の患者搬

送システムが非常に発達しており、Shock trauma center という、外傷患者治療のための巨大な専門施設があります。Hopkins だけではなく、ボルチモアの西側に位置するメリーランド州立大学付属病院が、アメリカでもその草分け的存在として大変有名です。センター内では、脳神経外科医は neurotrauma 部門で専門家として脳脊髄外傷疾患の手術を担当しています。患者搬送トリアージ (優先順位) やこれらの優れたシステムを最大限有効に利用することで、患者の予後改善だけでなく、医療費の削減に対する有効性を統計学的に評価する研究が行なわれております。また、いかにその結果を mass casualties (テロや自然災害における多数の犠牲者が発生した場合) に備えて活用するかなどまさに米国だけでなく、世界が現在直面している問題に応用しようとする努力がなされています。

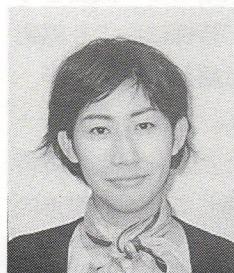
社会的弱者が更に医療提供において不平等な状況に追い込まれてしまう可能性のある複雑な保健制度、医療過誤が起きた場合、責任の所在が不明確になってしまふ縦割りの医療システムなど、“医療先進国” であるはずの米国の持つ医療問題の深刻さを垣間見る一方で、“医学教育・卒後研修プログラム” の水準の高さと、医学部卒後・レジデンシイ終了後の進路の選択肢の多さに関しては本当に羨ましい限りだと思います。

卒業後の予定ですが、ワシントン DC 郊外の街、ベセスタにある National Institute on Aging, Laboratory of Epidemiology, Demography, and Biometry にて Dr. Launer のもと、Neuroepidemiology (脳神経疾患をあつかう疫学) の研究をすることになりました。HAAS (The Honolulu Asia Aging Study) という cohort data を用いて、頭部 MRI 所見と アルツハイマー病、血管性痴呆発症の関連を疫学・統計学的に調べる予定です。



もちろん、脳外科疾患の治療方針決断における統計学的な研究なども、将来やりたいことのひとつです。帰国後は、どのような機会をつかむことができるか想像できませんが、理想的には臨床と公衆衛生学的な知識を両方いかせるような仕事をしてゆきたいと思っております。

最後に、医学部を卒業してから、今まで病院の中の限られた世界しか知らなかつた私ですが、多くの日本と現地のロータリアンの方々、世界の奨学生の方々との心温まる交流を通して、学問だけでなく、広い世界に生きる一人の人間として多くのことを学ばせていただきました。このような素晴らしい機会と、暖かい援助を与えて下さった、国際ロータリー会員の皆様、ロータリー財団奨学金・学友委員会の皆様、本当に有難うございました。心よりお礼を申し上げます。そして常に私を励まし、惜しみない応援をしてくれた夫、家族に、この場をおかりして感謝を述べさせていただきます。どうぞ皆様、お体ご自愛下さいませ。今後ますます皆様のご発展、ご活躍をお祈り申し上げます。



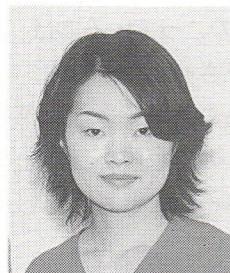
高堂 桜  
2002-2003 年度オーストリア  
インスブルック大学  
推薦クラブ：豊中南RC  
奨学金タイプ：1 学年

現在は大阪大学の大学院に籍を置き、留学の成果を博士論文に向けて集約させるべく精進しております。

今回の留学に際しましては、入学許可に始まり住居のこと、至るまで、さまざまの困難がつきまといました。中でも留学ビザの取得に関しては、現地警察が換日の新しい協定を知らなかつたため、最終的にチロル州議会の方のお力を借りることになり、悔しい思いもずいぶん致しました。しかしそれもこれも、今となってはすべて自らの克己心を養うよい機会であったと感謝しております。

一口に留学すると言っても自力、私費、交換留学など、さまざまな手段があります。しかし今回、国際理解を目的とした団体のもとで海外留学を行

うことの意義深さを非常に強く感じました。自力で留学することも選択肢としてはあるでしょうが、留学中、そしてその後も、所属地区の方々、またホストの方々をはじめとする人々への感謝の気持ちの上に勉学を行うことは、海外の滞在をたんなる留学以上のものしてくれるに違いないと思います。そしてその感謝の気持ちは留学後も、ほかの人々への援助という形で表されていくのではないかでしょうか。自分自身も、留学前と後では心境にずいぶん変化があったと感じております。この変化を、どういう形でかはまだ分かりませんが、他者への奉仕という方向で必ず表していく決意でおります。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。



阿南 順子  
2001-2002 年度/アメリカ  
イリノイ大学  
推薦クラブ：大阪阿倍野 RC  
奨学金タイプ：マルチ

私は 2003 年 5 月にイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校を卒業し、英語教育の修士号を取得しました。私が所属していたのは Division of English as an International Language という比較的小さな division で、留学生半分、アメリカ人学生半分という構成でした。留学生は様々な国から来ており、彼・彼女たちとの交流を通じて、アメリカ文化だけではなく、韓国、台湾、中国、タイ、ブラジルなど様々な国の文化に触れることができたことは、ロータリー奨学生としても、英語教師としても、大変良い経験でした。プログラムの内容も大変充実していました。教授陣はそれぞれの分野の第一線で活躍しており、授業ではこれらの先生方から大いに刺激を受けました。勉強は大変でしたが、仲間たちと助け合い、励まし合って困難なことを乗り越えてきたのも今となっては良い思い出です。また、実習では実際にノンネイティブの学生たちに、オーラル・コミュニケーション、リーディング・ライティングや発音などを教える機会があり、これはとても勉強になりました。日本では英語の授業は日本語で教えられるの

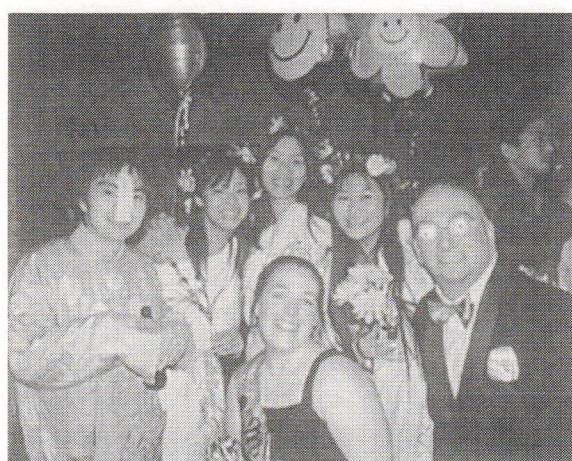
が普通ですが、これが日本人の貧困な英語力の原因になっているのではないかと感じました。今後、アメリカで学んだことを日本の教育現場で活かせるよう努力したいと思います。

私のホスト・カウンセラーは、アーバナ・サンライズ・ロータリークラブのバーバラ・リントナーさんと言う方でした。リントナーさんにはイリノイに到着したときから大変お世話になりました。寮にはいるまでの間数日お宅に泊めて下さり、生活必需品の買い物にも連れて行って下さいました。お仕事がお忙しいにも関わらず、私のためにお休みまで取って下さいました。おかげさまで、他の留学生とは違って、スムーズに寮での生活を始めることができました。この後もリントナーさんは折に触れて私をお食事や映画等に誘って下さり、始めての海外生活で寂しく思うことなく過ごすことができました。中でも印象にのこっているのは、感謝祭の時にお宅に招待して下さったことです。アメリカの家庭の文化に触れることができたと思います。また、リントナーさんのご家族が、私を家族の一員のように扱って下さったこともとても嬉しく思いました。

ロータリー奨学生としても、様々なイベントに参加する事ができました。毎年初秋には恒例のピクニックがあり、例会ではお会いできないロータリアンや奨学生とお話しする良い機会でした。また、ポットラックという、各自料理を持ち寄って集まるパーティーにも呼んでいただきました。ホストロータリークラブでは、大阪についてお話しする機会も与えていただいて、みなさん大変興味深く聞いて下さりとても嬉しく思ったのを覚えています。また、リード・アクロス・アメリカという読書のイベントにも参加することができ、アメリカの絵本の日本語版を子供たちに呼んで聞かせると言う機会もいただきました。子供たちが、日本語がわからないものの絵本を見ながら大体の内容を理解し、私の後に繰り返して日本語を発音しようとするのがとてもかわいらしかったです。このように様々な活動に参加しましたが、中でも特に印象深かったのは、6490 地区の地区大会に參加したことです。この会議で、地区的ロータリアンたちが国際的な慈善事業（インドのある地区に井戸を掘る）に取り組んでいることを知り、大変感銘をうけました。

ロータリーの活動以外で楽しかったことは、アメリカの様々な州を訪れたことです。ニューメキシコ、マサチューセッツ、ニューヨーク、カリフォルニアを旅行しましたが、それぞれ特徴があり、アメリカの広さを改めて感じました。また、アメリカ以外の国にも行きました。2002 年の 12 月から 2003 年の 1 月にかけて、ドイツとチェコを旅行しました。アメリカとは全く違う文化の中で、改めてアメリカ文化について考える良い機会になりました。とくに私が感じたのは、アメリカの人々はとても親切である、ということです。例えば買い物をするときなど、店員が客にフレンドリーに話しかけたり、道で迷っている人がいたら声をかけたり、ということは、アメリカならではなのではないかと思います。文化に善し悪しなどと言う物はありませんが、外国人にとって、アメリカは暮らしやすい国のような気がします。

帰国後は、まず 2660 地区ロータリー奨学生のオリエンテーションにて、親善奨学生としての経験についてお話ししたり、またアドバイスをしたりしました。今後も、これからのお奨学生をサポートしていくたいと思っております。最後になりましたが、2 年間の留学という素晴らしい機会を与えて下さったロータリー財団の皆様に心より感謝申し上げます。私の留学期間は終わりましたが、国際親善に終わりはありません。今後とも、ロータリーの活動に参加させていただき、将来の親善奨学生をサポートすることを通じて、国際親善に貢献し続けたいと思います。



友人たちと（加藤真理さん）

## ● コラム 楽学生OB/OGはいま

### イギリスを振り返り、そして、現在を見つめて

佐藤慶一

1998-1999 イギリス/ブラッドフォード大学

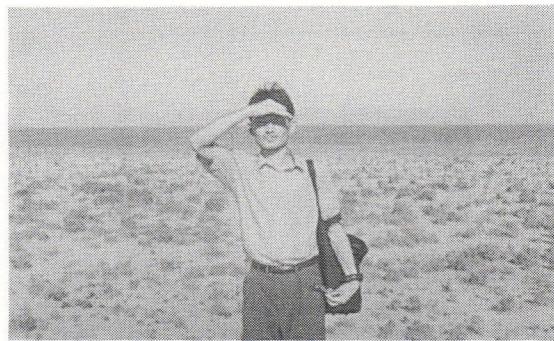
箕面ロータリークラブ推薦

ホストクラブ キースリーロータリクラブ

大学卒業後、大阪の北の町で役場職員として働いて自分にとって、「外国の大学院に留学する」ということは、とても遠い夢でした。箕面ロータリークラブが、私を評価してくださり、最終的に留学できたことは、私にとって人生の転機でした。

イギリスの留学では最初語学ができず非常に苦労しましたが、それだから一層、箕面ロータリーのペナントをもって熱心に地区のクラブを訪問した思い出があります。とりわけ、留学を通じて学生だけでなく、年上のロータリアンの方々とお付き合いすることで社会の様々な階層に触れることができたことは、私の視野を大きく広げることにつながりました。

特に、ブラッドフォードは、人口の半分を占めるインド・パキスタン系の移民と白人との民族的な軋轢や、イギリスでもっとも治安が悪いために起こる様々な事件を通じて、イギリスの「影」の部分を見ることができました。日本では、イギリスにあこがれる人が多いですが、イギリスのよいところ、悪いところも見ることができます。特に銀行の力が非常に強く、自分のいたウェストヨークシャー最大の産業は、銀行業と聞いて驚きました。イギリスでは、IT等、銀行の中枢機能は土地の高い都会ではなく、田舎にあるのです。



干上がったアラル海をバックに

帰国後大阪の大学にいたときは、いろいろなクラブで、活動の報告をさせていただきました。皆

さんに少しでもイギリス留学の成果を報告できたらと思っていました。日本の大学院博士後期課程に入学しましたが、やはり、フィールドに出てみたいと思い、青年海外協力隊に応募しました。確かに現地では、日本の援助のマイナス面もたくさん見えてきます。特に、日本はお金の使い方が下手ですが、それだからこそ、踏ん張ろうと思う今日この頃です。

現在、ウズベキスタンのカラカルパクスタン自治共和国の首都ヌクスにあるアジア開発銀行プロジェクト事務所で、協力隊として働いています。日本では信じられないような問題がたくさんあります。すべての役所・仕事がトップのワンマンなのです。トップに能力があればいいのですが、なかなか大変です。現地では、アラル海がほぼ完全に干上がり、アラル海を中心に存在していた産業は壊滅しています。残念なのは、現地の人の夢は、隣のカザフスタンや韓国へ出稼ぎに行くことです。ウズベキスタンでは、政府の統制経済のため、非常に発展が遅れているのです。ただ、夢もあります。現地の若者、特に女性が非常に聰明なことです。ロシア語だけでなく、英語にも堪能な人材が大勢います。現在は、彼らと共に NGO 等を通じて、地域の発展に貢献したいと思っています。

幼児の高い死亡率や、寿命の短いこと、雇用が少ないと、教育レベルの低下など、ソビエト時代の遺産がどんどんなくなりつつあり、いま何かをしなければ、大変なことになると、容易に予測できます。こちらでは、イギリス留学の経験を生かして、ホームパーティー等を通じ知人を増やしています。生活は楽しいです。

もっと皆さんに、報告したのですが、機会を改めて、支援等についてお話しさせていただきます。



カザックダルヤという、元の漁港の冬の風景と  
地元の人たち

### III. 2003-2004 年度 財団国際親善奨学生プロフィール

【氏名】

いのうえ なおみち  
井 上 尚 路

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

東大阪中央RC 吉川 明宏

【奨学金種別】

マルチイヤー

【留学国・留学校・専攻分野】

アメリカ ダートマス大学 MBA

【略歴】

1973年生まれ

1996年 早稲田大学卒業

1998年 早稲田大学大学院修了

同年 NTT入社

2001年 京都大学大学院言語文化研究科博士前期課程終了

現在 同研究科博士後期課程在学中

【大学等での研究】

Information and Computer and Science (AI, Computer Programming)

【これまでのクラブ活動・社会活動など】

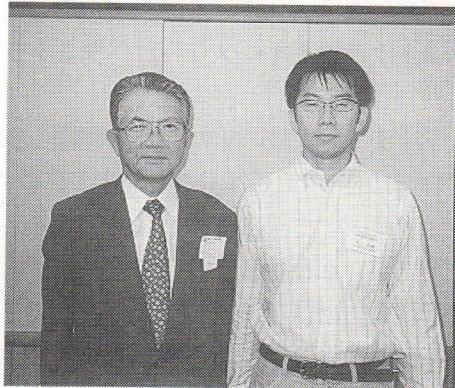
剣道部（大学院時代）

【国際親善大使としての抱負】

日本とアメリカの経営スタイルの違いを、ホストロータリークラブ、顧問ロータリークラブとの交流から学びたいと思います。趣味（盆栽、剣道）と学問（ビジネス）の両面から国際親善に貢献したいと思います。

【顧問ロータリアンから一言】

多くの人と知り合い理解を深める事が大切です。自分一人では生きていけません。（国も而り）他の人の支えが必要です。相手をよく知り又自分もよく理解していただく事です。文化、歴史により考え方も異なってくるでしょう。学問だけでなく、人をよく識る事が国際親善をたかめる事になります。よき人脈を築いてください。



【氏名】

はまだ ちさと  
浜田 千理

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

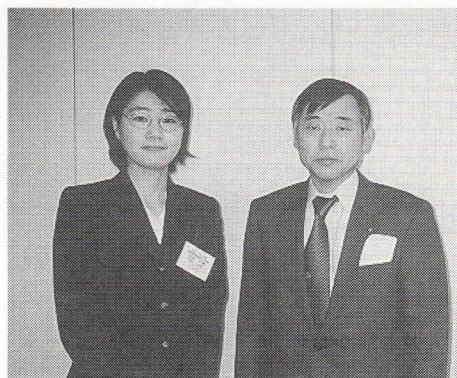
茨木RC 掛谷建郎

【奨学金種別】

1学年

【留学国・留学校・専攻分野】

イギリス ロンドン大学 ジャーナリズム



**【略歴】**

1968年 大阪生まれ  
 1988年 関西大学文学部入学  
 1991年 交換留学生としてベルギーのルーベン・カトリック大学に1年間留学  
 1993年 関西大学文学部卒業  
 1995年～1998年 私立高校教員  
 1999年 大阪大学大学院言語文化研究科修士課程入学  
 1999年～2000年 日本語教師  
 2002年 同課程修了

**【大学等での研究】**

メディア学、メディア・リテラシー（特にジェンダーの視点から）

**【これまでのクラブ活動・社会活動など】**

フォスターペアレントとしてインドの少女を援助、島本町緑と水を守る会での市民活動等

**【国際親善大使としての抱負】**

これまでの自分なりの人生経験を踏まえて、より多様な世界や人々と向き合い、主体的に学び、吸収し、そして自立した個人、市民として発信することを目指したい。

**【顧問ロータリアンから一言】**

現地ではできるだけ多くの人と交わり、彼らの文化を深いところで理解してください。「国際親善大使」として、日本について正しく伝えることにも努めていただくよう期待します。

**【氏名】**

なかがわ よういち  
 中川 洋一

**【スポンサーRC・顧問ロータリアン】**

茨木東RC 若林 三雄

**【奨学生種別】**

1学年

**【留学国・留学校・専攻分野】**

ドイツ ベルリン自由大学

欧州・大西洋の外交安全保障研究、ドイツの政治外交

**【略歴】**

1975年3月生  
 1993年 京都大谷高等学校卒業  
 1998年 大阪教育大学教育学部教養学科文化研究専攻欧米言語文化コース独語圏卒業

現在 大阪市立大学大学院法学研究科公法専攻（政治学）後期博士課程二年

**【大学等での研究】**

国際政治学、統一ドイツの対外安全保障政策。統一ドイツのNATO「域外 Out-of-Area」派兵問題、同盟90/緑の党の政党研究、安全保障政策。

**【これまでのクラブ活動・社会活動など】**

中学の時に吹奏楽部で打楽器を担当。高校の時に生物部に参加。大学の時に学園祭実行委員に参加。大学院院生協議会執行部、全国院生協議会への参加。

**【国際親善大使としての抱負】**

「肌で触れ合う（あくまで比喩ですが）」人的交流を図り、草の根レベルでの日本文化の宣伝役を務め



る。外国文化と日本文化との相違点を把握し、日本文化へ活かすべき点を見定める。研究・文化交流共々意欲的に取り組みたい。出来ることを着実にこなすようありたい。

【顧問ロータリアンから一言】

健康に充分留意され、専攻分野の研究に励まれます事と共に、国際親善大使として現地のロータリアンや学友との親交を深め、日本文化の紹介など両国の相互理解と親善に努めて頂く様、積極的なご活躍を期待しております。そして、グローバルな視野と国際感覚を身につけ帰国されます様祈念します。

【氏名】

ほりい ゆかり  
堀井 由香里

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

茨木西RC 角谷 真枝

【奨学金種別】

1学年

【留学国・留学校・専攻分野】

アメリカ ミネソタ大学 開発学

【略歴】

1980年9月11日 茨木市生まれ

1998年3月 大阪府立春日丘高校卒業

現在 大阪大学文学部 4回 在籍中

【大学等での研究】

英語学

【これまでのクラブ活動・社会活動など】

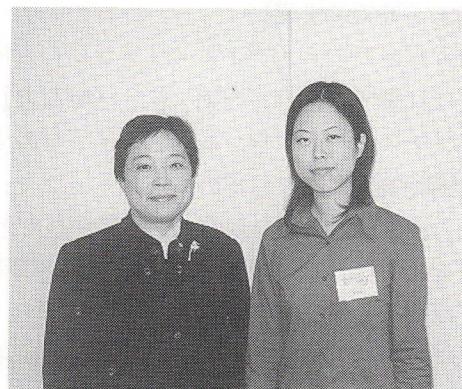
タイで1ヶ月間、インドネシアで2週間ボランティア活動。「国境なき医師団」の学生公認団体「国境なき学生関西」にて野宿者炊き出し等。

【国際親善大使としての抱負】

積極的な交流を通じて、日本への理解が深まるように努めたいと思います。

【顧問ロータリアンから一言】

選抜された学生さんなので、何も言うことはないのですが、留学先で堀井さんの良いところを發揮して頂き、又、留学先の良い風を持ち帰って頂く事を楽しみにしています。



【氏名】

いいだ きより  
飯田 清里

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

箕面RC 遠藤 雅昭

【奨学金種別】

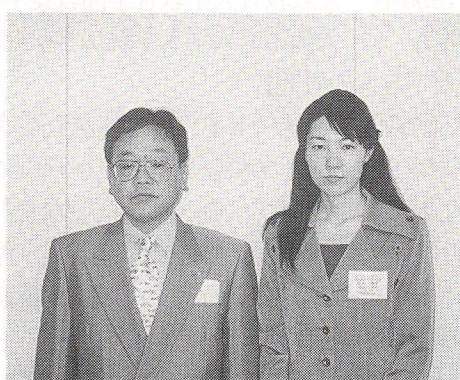
マルチイヤー

【留学国・留学校・専攻分野】

アメリカ ピッツバーグ大学 國際公共行政学

【略歴】

1973年9月13日生まれ



1999年4月～現在 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科在籍

**【大学等での研究】**

外国语学部の地域文化学科北米専攻英語科で、主に日米戦後史（主に米国占領史）を研究。卒論のテーマは「60年安保改定交渉の考察」。

**【これまでのクラブ活動・社会活動など】**

中学、高校共に陸上部。20歳の時にマラソン完走。また趣味で着付けを行っている（成人式、結婚式など）。

**【国際親善大使としての抱負】**

機会があれば着付けを通して着物の良さを伝えたい。

**【顧問ロータリアンから一言】**

箕面の事をよく勉強して先方にPRしてください。

**【氏名】**

中田 京子  
なかた きょうこ

**【スポンサーRC・顧問ロータリアン】**

箕面RC 的場 年昭

**【奨学生種別】**

1学年

**【留学国・留学校・専攻分野】**

イギリス ウェールズ大学 Accounting & Finance

**【略歴】**

1971年9月5日生まれ

1993～1994 University of East Anglia 留学

1996 大阪外国語大学英語科卒業

1996-2001 総合商社勤務

**【大学等での研究】**

アメリカ現代文学

**【これまでのクラブ活動・社会活動など】**

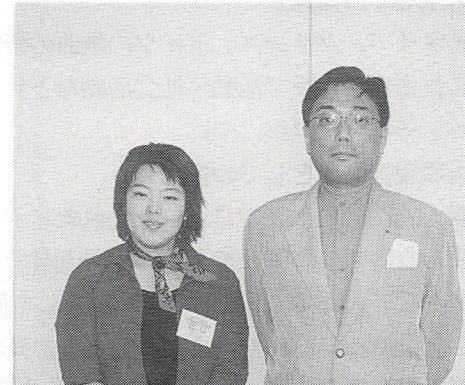
ボランティア通訳・ボランティア日本語教授

**【国際親善大使としての抱負】**

国際情勢がめまぐるしく変化する中、親善大使としてアジアの中の日本をアピールするとともに、留学生との友好関係をも深めるよう貢献したいです。

**【顧問ロータリアンから一言】**

国際親善とは相手の言う事を受け入れるとかこちらの主張をしないということではありません。開発や現代政治経済を学びたい将来の仕事にしたいという奨学生の皆さんには、日本と日本人としての立場、主張をはつきり持つことがまず第一に重要と認識し、勉強して頂きたい。



【氏名】

ふくしま ちなつ  
福島 千夏

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

大阪阿倍野RC 武田 秀孝

【奨学金種別】

マルチイヤー

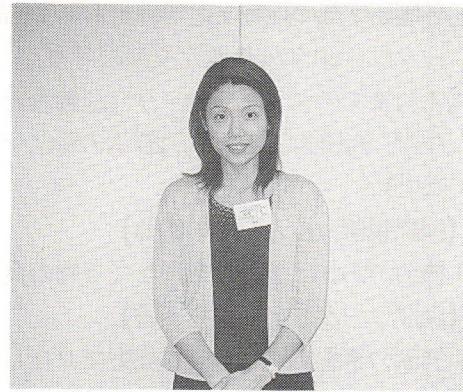
【留学国・留学校・専攻分野】

イタリア ボローニャ国立音楽院  
クラシック音楽声楽

【略歴】

1973年5月31日生まれ（大阪）

大阪府住吉高校を経て神戸女学院大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業、並びに専攻科を了。大学代表として関西新人演奏会に出演。これまでに、日本においてオペラでタイトルロール（主役）や、イタリアや韓国などとのガラコンサートに出演。また国内の様々なコンクールで入賞、入選。



【大学等での研究】

イタリア、フランス、ドイツの歌曲の研究。また主にイタリアのオペラを研鑽。

【これまでのクラブ活動・社会活動など】

バレーボール（小、中）

【国際親善大使としての抱負】

個人的にはこれまで日本に招かれたイタリア人のオペラ歌手方を審査員としたコンクールを受けてきましたので、今後はイタリアや周辺国でコンクールやオーディションを受けてみたいと思っています。イタリア人は共に敗戦した日本に対して仲間意識、それに日本の戦後の躍進と美しい伝統の共存に尊敬の念を持ってくれています。又彼らの日本に対する知識は相当なものなのです。現在は日本史の復習、能や歌舞伎の勉強、しばらく休んでいた書道と着付けを再開して、なんとか彼らの持つ印象を汚さぬよう努力するつもりです。国際親善大使としては「先進国に住む日本人」というより、伝統をよく知る一人の日本人でありたいと思っています。

【顧問ロータリアンから一言】

音楽（声楽）をより一層研鑽して国と国との交流と相互理解に貢献してください。

【氏名】

とみおか もとこ  
富岡 基子

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

大阪東RC 小中 義博

【奨学金種別】

マルチイヤー

【留学国・留学校・専攻分野】

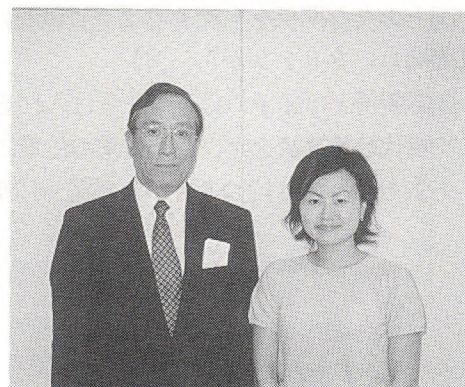
フランス EHESS（社会科学高等研究院） 哲学

【略歴】

1976年6月23日生まれ

1999年3月 同志社大学文学部卒業

1999年4月 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程入学



2002年3月 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了

2002年4月 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程入学

2002年10月現在 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程在籍中

#### 【大学等での研究】

フランス哲学・哲学史（主としてメーヌ・ド・ビラン[1766-1824]哲学研究）

#### 【国際親善大使としての抱負】

ロータリー・クラブの方々は勿論のこと、留学先の研究機関や普段の暮らしのなかで出遭うさまざまなひとたちとの、ひとつひとつの出会いを大切にし、折あれば、各々の考えを交換し合い、お互いの共通点と相違点とを認識することによって、相互理解を深めていくことができればと思っております。

#### 【顧問ロータリアンから一言】

世界には実に様々な文化・文明が存在していることを理解し、その相違を紛争の種としない寛容な「物の考え方」を習得して頂き、国際親善に役立ててください。

#### 【氏名】

立野 圭  
たつの けい

#### 【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

大阪本町RC 岡野 啓治郎

#### 【奨学金種別】

1学年

#### 【留学国・留学校・専攻分野】

イギリス アシュリッジ大学 MBA

#### 【略歴】

1967年12月26日 東京生まれ

1992年3月 筑波大学大学院理工学研究科卒業

1992年4月 清水建設（株）設計部入社

#### 【大学等での研究】

地震動及び建築物の地震応答解析

#### 【これまでのクラブ活動・社会活動など】

大学時に体育会硬式テニス部に所属。4年次卒業後、テニス部コーチ及びテニス講習会講師を経験。

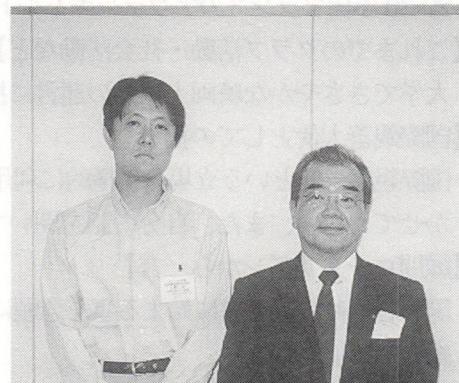
阪神大震災後、建築物の応急危険度判定士（ボランティア）。

#### 【国際親善大使としての抱負】

経験できることはどんなことでも貪欲にチャレンジしたい。そして少しでも私を推薦して頂いた方々、また、後に続く奨学生の方へ還元できるよう努力していきたい。

#### 【顧問ロータリアンから一言】

2003～04年度のロータリー財団国際親善奨学生として送り出すことが決まりました。当クラブも初めての経験で分からぬ事も多々あり、戸惑う事も今後、色々出てくる事とは思いますが、立野圭さんには、クラブ会員全員でバックアップして行きたいと考えております。立野圭さんが勤め先を退社してもロータリー財団国際親善奨学生制度を用いてMBAの資格を取得したいというチャレンジ精神の勇気と情熱に応える事が、国際親善奨学生制度の本來の主旨でしょうし、ロータリアンとしての向上の場でもあると考えるからであります。今回、合格が決まった英国の Business School は立野圭さんの第一志望校で、次なる人生のスタートラインに立たれておられます。これからは立野圭さんの応援団として声援を続けてゆくつもりです。



【氏名】

いなもと じょう  
稻本 譲

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

大阪西南RC 露口 佳彦

【奨学金種別】

マルチイヤー

【留学国・留学校・専攻分野】

フランス ブリュッセル自由大学 映画史・映画論

【略歴】

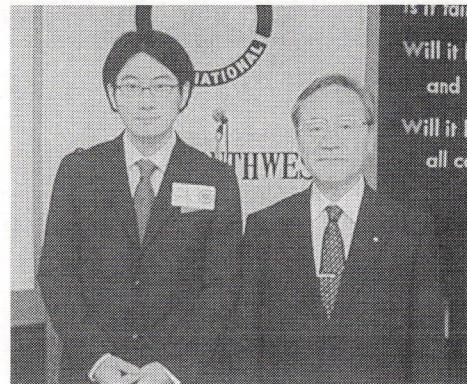
1976年7月26日宮城県仙台市生まれ

1995年 県立仙台第二高等学校卒業

2000年 大阪外国語大学外国語学部卒業

2003年3月 大阪外国語大学大学院言語社会研究科博士前期課程修了

現在 博士後期課程に在学中。



【大学等での研究】

20-30年代フランスのアヴァンギャルド映画、およびその作家たちによる映画理論を研究しています。

【これまでのクラブ活動・社会活動など】

大学でささやかな映画上映会の運営に携わっています。

【国際親善大使としての抱負】

国際親善大使という立場を積極的に利用して、様々な世代や国籍の人々と交流を深め、彼らの話を聞かせてもらい、また、自分の話を聞いてもらうこと。

【顧問ロータリアンから一言】

国際親善は国際理解に始まる事を念頭に美しい豊かな日本文化を得意な語学を生かして大いに先方に紹介して下さい。

【氏名】

すぎうら こういち  
杉浦 功一

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

大阪住之江RC 松井 信博

【奨学金種別】

1学年

【留学国・留学校・専攻分野】

イギリス サウサンプトン大学 国際関係論・政治学

【略歴】

1973年8月30日生まれ

1992年3月 私立清風南海高等学校卒業

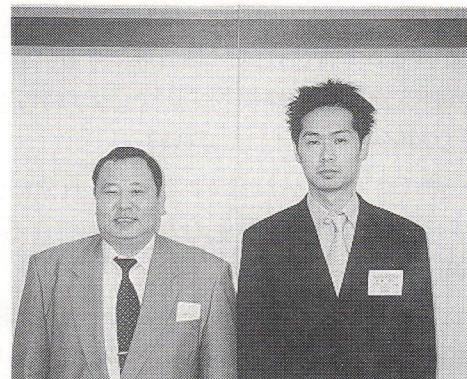
1997年3月 神戸大学法学部法律学科卒業、学士（法学）

1999年3月 神戸大学大学院国際協力研究科博士課程前期課程修了

修士（政治学）

2002年3月 神戸大学大学院国際協力研究科博士課程後期課程修了

博士（政治学）



**【大学等での研究】**

国際関係論、国連による民主化支援活動及び国連自体の民主化の研究。

**【これまでのクラブ活動・社会活動など】**

大学院で1年間、院生協議会（院生の自治組織）の議長を務め、教育・研究環境改善のための活動を行いました。

**【国際親善大使としての抱負】**

研究対象である平和や国際協力に、自らが実際に貢献しうる有り難い機会だと考え、国際親善大使としての務めを立派に果たしたいと思います。

**【顧問ロータリアンから一言】**

「愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ」という諺がありますが、英國の歴史を学んでほしい。

**【氏名】**

まつがみ じゅんいちろう  
柏上 純一郎

**【スポンサーRC・顧問ロータリアン】**

高槻RC 小宮山 章二

**【奨学金種別】**

1学年

**【留学国・留学校・専攻分野】**

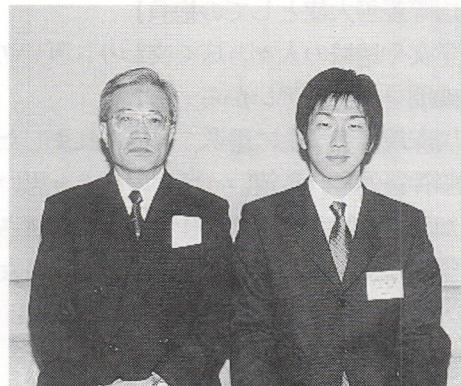
イギリス イーストアングリア大学 開発学

**【略歴】**

1980年10月15日生まれ

1999年 3月大阪府立春日丘高等学校卒業

同志社大学文学部社会学科新聞学専攻

**【大学等での研究】**

NGOと国際組織そして各国政府の途上国支援における協力のありかたについて研究しており、卒論では国際地雷禁止キャンペーンの成立までの過程を扱っています。

**【これまでのクラブ活動・社会活動など】**

中学時代…体操部 高校時代…合唱部 大学時代…グリークラブ にそれぞれ所属していました。

**【国際親善大使としての抱負】**

留学するまでに日本に関する知識、経験を蓄え、少しでも外国の方に日本について理解してもらえるようにしたいと思います。また自分自身もイギリスで異文化について理解を深め、日本に帰ってきたとき、逆にイギリスからの親善大使としての役割を果たせるようにしたいと思います。

**【顧問ロータリアンから一言】**

本や映像から得られることで無く、実際に体験し、感じることは、非常に有意義で貴重なことだと思います。1年が短いと感じられるように、いろんな事を積極的に学んできてください。

**【氏名】**

かんだ みさ  
神田 美紗

**【スポンサーRC・顧問ロータリアン】**

豊中RC 畑田 耕一

【奨学金種別】

1学年

【留学国・留学校・専攻分野】

アメリカ International Relations

【略歴】

1970年3月30日大阪生まれ

関西学院大学・カールトン大学（カナダ）卒業

プロクター&ギャンブル・アジア本社（六甲アイランド）勤務

現在大阪大学大学院に在籍中

【大学等での研究】

英文学・政治学 学位取得 現在、国際公共政策研究科においてボスニア紛争後の平和構築（政治体制）について修士論文執筆中。

【これまでのクラブ活動・社会活動など】

カナダでの留学生会館でのボランティア 大阪国際センターでの通訳のボランティアなど。

【国際親善大使としての抱負】

学友や地域の人々と広く交わり、互いの文化について深く理解しあえるよう努力したい。

【顧問ロータリアンから一言】

国際親善奨学生に選考、合格されました事、誠にうれしく思います。希望国アメリカ、そして専攻が脳神経外科、希望いっぱいの日々と思います。出発から帰国までの約一年間、グローバルに大いなる知識を吸収され、国際社会の為に活躍される事を期待します。又、学問を通じ Enjoyされる事も望みます。私、そして高槻西RCは貴女との出逢いを大変うれしく思って居ります。リラックスして大使の使命を遂行くださいます様お願いします。



【氏名】

にしやま みきえ  
西山 幹枝

【スポンサーRC・顧問ロータリアン】

豊中RC 大塚 順三

【奨学金種別】

1学年

【留学国・留学校・専攻分野】

アメリカ コロンビア大学 教育学

【略歴】

1975年7月生まれ

【大学等での研究】

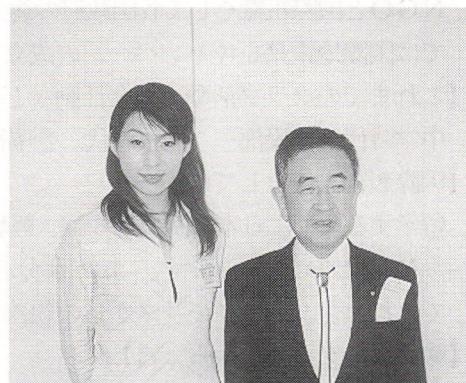
応用言語学、認知言語学、言語習得理論、英語教育

【国際親善大使としての抱負】

私と出会う人たちに幸せを与えられるような親善大使となり、日本と他国の人々の国際交流のかけはしとなるよう全力を尽くしたいです！

【顧問ロータリアンから一言】

Brokenでよいかからとにかく留学する国の言葉を少しでも覚えること。そして相手国の文化について勉強することは無論大切ですが、ひるがえって日本国の紹介をよどみなくできるようにすることはもっと大切です。



**【氏名】**

まつの さえ  
松野 韶恵

**【スポンサーRC・顧問ロータリアン】**

豊中RC 道満 隆

**【奨学金種別】**

マルチイヤー

**【留学国・留学校・専攻分野】**

オランダ アムステルダム大学 美術史学

**【略歴】**

1975年9月17日生まれ。

大阪府立茨木高等学校、国際基督教大学（東京）卒業。

現在、大阪大学文学研究科博士前期課程2年に在学、西洋美術史学を専攻。

高校2年次にカナダサスカチュワン州へ留学。

**【大学等での研究】**

19世紀末から20世紀のドイツ、及びオランダで制作されたステンドグラスについて研究中。2004年3月に修士号を取得する予定。

**【これまでのクラブ活動・社会活動など】**

中学は剣道部、高校は茶道部（表千家）に所属。中学時代から骨髓バンク設立募金活動、老人ホームでのボランティアなどの社会活動に従事する。大学1年次、開発援助NGOのプログラムに参加し、パレスチナ・ガザ難民キャンプを視察する。

**【国際親善大使としての抱負】**

10代の頃から美術の豊かな世界に惹かれ、美術史研究を生涯の職業とする希望を持って勉学に励んでまいりました。しかし、現実の世界には貧困、紛争、病気など人間の生存を脅かす問題が山積しております。美術が与えてくれる感覚的喜びに没頭するだけでなく、社会福祉の実現に微力ながら貢献したいと願っております。また、ロータリアンの皆さまの期待と助力を支えとして、日本と留学派遣国の友好に役立てるよう真心をこめて交流に努めさせて頂きます。

**【顧問ロータリアンから一言】**

ロータリー国際親善奨学生はその名の示す如く、学位をとったり研究成果を競うものではなく、日本と諸外国間の理解と親善の実を挙げる事も大きな目的となっております。従って彼地に行かれても大いに日本のPRをして頂くと共に積極的に知己を増やし、見聞を広めて帰って来られる事を期待します。色々忙しいスケジュールやいやなスピーチを求められる事もあるかと思いますが「こんな経験を積める機会は又ない」と前向きにこなしてください。健康にはくれぐれも気をつけて。





## PSC イエローページ

これらのアドレスは予告なく変更されることがあります。

### RI2660-PSC の M-L に関するご質問、お問い合わせ

ri2660pscadmin@eastmail.com

### 住所・勤務先・姓名等の変更通知

gov@ri2660.gr.jp

### RI 第 2660 地区の HP

<http://www.ri2660.gr.jp/>

## 編集後記

まず、「PSC だより」を編集するにあたりご協力いただいた財団奨学生・学友委員諸氏、PSC 会員、そして寄稿者の方々に深く御礼申し上げます。この冊子が、国際親善を通じて人道的、文化的にも活躍される奨学生の皆さんのお役に少しでもたてば幸いです。また、PSC の活動を多くの皆様に知っていたいただき、交流が生まれれば、と願っております。

2002-2003 年度 PSC 書記 内村美保子

財団学友会（PSC）に関する連絡・問い合わせ等は、  
下記宛に書面かFAXにてお願い致します。

国際ロータリー第2660地区ガバナー事務所  
〒541-0052 大阪市中央区安土町1-5-11 トヤマビル東館6F  
phone: 06-6264-2660 fax: 06-6264-2661 e-mail: gov@ri2660.gr.jp

**財団学友会活動報告 NO.18 (PSCだより)  
2002-2003年度**

**発行 佐藤 俊一  
(財団奨学金・学友委員長)**

**編集 内村 美保子  
(PSC書記)**

**印刷 (株) 小柳印刷所**

